

# 令和元年度 事業報告書



## Mission statement



### 日本赤十字社の使命

わたしたちは、  
苦しんでいる人を救いたいという思いを結集し、  
いかなる状況下でも、  
人間のいのちと健康、尊厳を守ります。

### わたしたちの基本原則

わたしたちは、世界中の赤十字が共有する7つの基本原則にしたがって行動します。

- 人道：人間のいのちと健康、尊厳を守るために、苦痛の予防と軽減に努めます。
- 公平：いかなる差別もせず、最も助けが必要な人を優先します。
- 中立：すべての人の信頼を得て活動するため、いっさいの争いに加わりません。
- 独立：国や他の援助機関の人道活動に協力しますが、赤十字としての自主性を保ちます。
- 奉仕：利益を求めず、人を救うため、自発的に行動します。
- 単一：国内で唯一の赤十字社として、すべての人に開かれた活動を進めます。
- 世界性：世界に広がる赤十字のネットワークを生かし、互いの力を合わせて行動します。

### わたしたちの決意

わたしたちは、赤十字運動の担い手として、  
人道の実現のために、  
利己心と闘い、無関心に陥ることなく、  
人の痛みや苦しみに目を向け、  
常に想像力をもって行動します。

## はじめに

赤十字運動の推進につきましては、平素から県民の皆様並びに地区・分区をはじめとする関係者の皆様の深いご理解と温かいご支援を賜り厚くお礼申し上げます。

三重県支部は、明治 22 年 10 月 19 日に創立し、昨年、支部創立 130 周年を迎えることができました。赤十字の使命であります人道をもとに、国内外での人道的諸活動に取り組んでこられましたのは、長年にわたる皆様方からの温かいご支援のお陰であり、改めて感謝申し上げる次第でございます。

そして本年、新型コロナウィルス感染症が国内はもとより世界的に深刻な問題となっております。日赤では、全国の赤十字病院を中心に、その発生初期から、クルーズ船への医療チームの派遣などに始まり、現在も患者の受け入れ、感染拡大防止のための情報発信などに全力を尽くしております。

さて、令和元年度の三重県支部事業につきましては、全国で、台風や豪雨等の災害による大きな被害が発生し、日本赤十字社は、被災者支援活動に全力で取り組んでまいりました。

三重県支部におきましても、台風 19 号災害で被害の大きかった長野県長野市へ発災直後からこころのケア班を派遣し、診療支援活動や震災ストレスを抱える方々へのケアに努めるとともに、支援連絡調整員を長野県支部に派遣し、被災県支部の救護活動支援を行いました。今後、高い確率で発生が懸念されている南海トラフ地震等の大規模災害に備え、災害救護体制の充実・強化を図ってまいります。

また、地域の防災力を高めるため、救急法などの各種講習会や、高校生等が競い合う第 3 回救急法競技大会を開催し、健康と安全に関する知識と技術を広く県民に普及することで、「災害からいのちを守る日本赤十字社」としての活動を展開してまいりました。その他、赤十字ボランティア、青少年赤十字活動及び国際救援活動にも積極的に取り組んでまいりました。

これらの活動の財源は、活動資金であり、今後も引き続き県民の皆様へ赤十字運動の理念と活動の普及に努め、一人でも多くの方々からご支援いただけるよう取り進めてまいります。

次に、医療事業につきまして、伊勢赤十字病院は 2020 年 2 月で創立 116 周年を迎えました。高度急性期・急性期の分野を中心に地域完結型医療の一翼を担うべく地域医療に貢献しています。

また、三重県南部で唯一の救命救急センターを有する基幹病院として、「断らない救急」を信念に救急車を積極的に受け入れ、ドクターへリの基地局運営も行うなど、より一層の救命率向上に貢献すべく広域的な救急医療を展開しています。

さらに、地域災害拠点病院として大規模災害の発生に備え、地域住民の方々の期待に応えられるよう一層の機能強化を図りつつ、赤十字病院として災害救護の使命を果たしてまいります。

血液事業につきましては、広域事業運営体制に移行して 7 年が経過しました。東海北陸ブロック 7 県の中の一つの血液センターとして、医療機関に安心・安全な血液製剤を供給できるように 365 日 24 時間体制による安定的な供給に努めています。医療機関へ安定的に血液製剤を供給するために、献血のご協力を広く呼び掛けており、県市町はもとより関係団体のご協力をいただきながら、街頭啓発や広報活動を実施して多くの方にご参加いただいています。

令和元年度の献血者数は医療需要により増減がありますが、平成 30 年度と比べ多くの方のご協力をいただき、東海北陸ブロック管内の広域事業運営体制のもと、過不足なく医療機関へ血液製剤を供給することができました。これもひとえに皆様方のご協力によるものでありお礼申し上げます。

四日市献血ルーム「サンセリテ」はこれまで入居していたビルの営業終了に伴い、令和 2 年 2 月 1 日にララスクエア四日市の 5 階に移転しました。新しい献血ルームでは献血者の皆様がくつろげるよう、おしゃれでカフェのような空間をコンセプトとし、様々な世代の献血者にご利用いただけるような施設にリニューアルいたしました。また、高校生への献血セミナーを継続的に実施し、若年層への献血確保するための取組を積極的に行い安定的な血液の確保に努めてまいりました。

これからも「人道」を基本理念として、各関係機関との連携強化を図り、気持ち新たに職員一丸となってより効果的な事業の展開に努めてまいりますので、皆様方のなお一層のご支援、ご協力を賜りますようよろしくお願いします。

# 目 次

1. 国内災害救護	1
2. 国際活動	6
3. 医療事業	8
4. 赤十字看護師の養成	24
5. 血液事業	24
6. 社会福祉活動	31
7. 救急法等の講習	32
8. 青少年赤十字活動	36
9. 赤十字ボランティア活動	39
10. 赤十字会員の増強と活動資金の募集	44
11. 赤十字の普及と広報活動の推進	47
12. 日本赤十字社三重県支部創立 130 周年記念事業	47
13. 事業推進のための会議	51
14. 令和元年度決算状況	
(1) 一般会計歳入歳出決算（三重県支部）	53
(2) 医療施設特別会計決算（伊勢赤十字病院）	54
(3) 令和元年度事業実施に対する監査委員監査報告書	55

## 1. 国内災害救護

日本赤十字社は、災害時には医療救護活動、救援物資の備蓄・配分、血液製剤の供給、義援金の受付・配分等の災害救護活動を行います。

昨年は、令和元年8月豪雨並びに台風第15号、19号災害等多くの災害が発生し、全国各地に甚大な被害が出ました。

日本赤十字社では、速やかに被災地に医療救護班を派遣するとともに、こころのケア要員、災害医療コーディネーター等を派遣し、医療救護活動を行いました。

三重県支部では、今後発生が危惧される大規模地震等に備え、災害救護訓練や研修、災害救援物資の備蓄に努めております。

### (1) 令和元年台風第19号災害被災地へこころのケア班を派遣

台風19号災害で甚大な被害を受けた長野県長野市へ、三重県支部からこころのケア班を派遣し、避難所に避難している住民のこころのケア活動を行うとともに、長野県支部へ支部支援連絡調整員を派遣し、被災県支部の救護活動支援を行いました。



(長野市の避難所)



(避難所でのこころのケア活動)

### (2) 赤十字救護班の編成

三重県支部では、医師(1名)・看護師長(1名)・看護師(2名)・主事(2名)の計6名を基準とした赤十字救護班を9班編成し、災害時に直ちに医療救護活動ができるよう体制を整備しています。また、災害発災直後の急性期医療活動に対応するため、DMATチーム(※1)や医療救護班2班に薬剤師・助産師を加えたd E R U班(※2)も編成し、救護体制の強化を図っています。

## ア 赤十字救護班

施設名	班数
伊勢赤十字病院	8班
三重県赤十字血液センター	1班

## イ DMATチームの基準

医師	看護師	業務調整員	計
1～2名	2名	1名	4～5名

※1 大規模な災害発生時に、迅速な医療救護を行うため専門的な訓練を受けた災害派遣医療チーム(DMAT:Disaster Medical Assistance Team の略)

三重県支部は、三重県とDMAT派遣協定を結び伊勢赤十字病院の5チームをDMATチームとして登録しています。

※2 dERU班は、救護班2班と助産師・薬剤師を加えた14名でチームを編成し、災害時の医療救護を担当します。

(dERU:Domestic Emergency Response Unit の略)



(赤十字救護班任命式)



(dERUでの救護所設営)

## (3) 災害救護体制の強化

### ① 救護班要員の研修

本社が主催する全国赤十字救護班研修等に参加し、DMATと協働して災害救護活動ができるようスキルアップを図るとともに、救護班要員の救護技術向上のため、下記の研修を実施しました。

救護班要員研修	開催場所	参加者	実施日
救護班要員新規登録研修	伊勢赤十字病院	救護班新規登録職員	令和元年5月22日
救護班要員研修Ⅰ（基礎）	伊勢赤十字病院	救護班要員	令和元年6月3日 7月18日
救護班主事力向上研修	伊勢赤十字病院	救護班主事	令和元年7月22日
救護班要員研修Ⅱ (総合演習)	伊勢赤十字病院	救護班要員	令和元年10月8日 12月9日
こころのケア研修	伊勢赤十字病院	看護師等	令和元年8月23日 令和2年3月5日
災害看護論Ⅰ	伊勢赤十字病院	看護師等	令和元年7月17日
災害看護論Ⅱ	伊勢赤十字病院	看護師等	令和元年9月3日
全国赤十字救護班研修会	日本赤十字社(本社)	救護班要員	令和元年7月14日～16日 令和2年2月1日～3日

## ②災害救護訓練

昨年は、「近畿府県合同防災訓練・緊急消防援助隊近畿ブロック合同訓練」が松阪市で実施され、伊勢赤十字病院から三重 DMAT として、多数傷病者対応訓練に参加し、関係機関との連携強化を図るとともに、救護知識・技術の向上に努めました。

また、各市町の訓練にも赤十字救護班やボランティアが参加しました。



(近畿府県合同防災訓練・緊急消防援助隊近畿ブロック合同訓練)



(津市総合防災訓練)

行 事 名	開催場所	実 施 日	参 加 者
近畿府県合同防災訓練・緊急消防援助隊近畿ブロック合同訓練	松阪市他	令和元年 10 月 27 日	支部職員・病院 DMAT
津市総合防災訓練	津市	令和元年 11 月 10 日	支部職員・救護ボランティア
亀山市総合防災訓練	亀山市	令和元年 11 月 30 日	支部職員・救護ボランティア

## ③日赤災害医療コーディネーター・コーディネートスタッフの任命

災害時における救護班全般に係る対応や調整を行うために日赤本社から災害医療コーディネーター1名、コーディネートスタッフ3名が任命されています。

また、本社で開催された日赤災害医療コーディネート研修会に参加しました。

研修会名	実 施 日	参 加 者
日赤災害医療コーディネート研修会	令和元年 12 月 7 日～8 日	病院コーディネートスタッフ

## ④日本赤十字社原子力災害対応基礎研修会への参加

放射線環境下での救護活動に安全に従事できるよう放射線や原子力災害医療体制等にかかる基本的知識及び放射線防護資機材の使用方法を習得する目的で、静岡県支部で開催された研修会に伊勢赤十字病院救護班5名が参加しました。

研修会名	実施日	参加者
日本赤十字社原子力災害対応基礎研修会	令和元年6月7日～8日	病院救護班

#### (4) 災害救護装備・資器材の整備

災害救護装備・資器材等を地区分区へ配備しました。

##### ① 災害救援車を配備

日赤地区・分区における災害救護活動や、各種赤十字事業を円滑に実施するため、災害救護用自動車を桑名市、津市、朝日町、大台町、紀北町、御浜町の地区・分区に配備しました。

##### ② 発電機、LED バルーン照明機を配備

災害救護用資器材として発電機を4地区分区に、LED バルーン照明を9地区分区に配備しました。

#### (5) 災害救援物資の備蓄

##### ① 災害救援物資の備蓄

災害や火災等による被災者の方々に、毛布や緊急セット等の救援物資を配布するため、地区・分区や三重県防災倉庫などに災害救護物資を備蓄しています。



(毛布とタオルケット)



(緊急セット)

##### ② 罹災者への救援

県内で発生した災害の罹災者に対して、毛布69枚、タオルケット22枚、緊急セット75個、死亡者弔慰金8件、8名の方に16万円を地区・分区を通じて贈りました。

③支部災害救援物資備蓄状況（令和2年3月31日現在）

地区	毛布 (枚)	タオルケット (枚)	緊急セット (個)	福祉事務所	毛布 (枚)	タオルケット (枚)	緊急セット (個)
いなべ市	200	35	22	北勢	86	71	40
桑名市	46	14	26	多気	63	27	47
四日市市	73	20	60	度会	67	28	75
鈴鹿市	9	30	22	紀北	85	18	59
亀山市	22	0	13	紀南	288	5	54
津市	137	69	70	小計B	589	149	275
松阪市	69	26	44	地区・県事務所 計(A+B)	1,684	597	776
伊勢市	153	63	61				
鳥羽市	42	35	22	支部倉庫	2,290	690	716
志摩市	43	55	36	鈴鹿倉庫	4,370	0	300
伊賀市	89	42	37	伊勢倉庫	1,698	120	306
名張市	43	30	24	伊賀倉庫	1,000	0	324
尾鷲市	154	11	45	尾鷲倉庫	1,020	0	300
熊野市	15	18	19	熊野倉庫	1,500	0	300
小計A	1,095	448	501	倉庫合計	13,492	1,387	2,938

（6）臨時救護活動

地区分区等が主催する行事に看護師を派遣して、事故防止と健康安全思想の普及に努めました。

行事名	件数	主な派遣先
各市町体育大会、運動会	14	四日市、鈴鹿市、津市、鳥羽市、東員町他
マラソン、駅伝他	8	津市、伊賀市、名張市、東員町、菰野町他
市民納涼大会、花火大会	22	桑名市、鈴鹿市、津市、伊賀市、名張市他
その他行事	31	四日市市、鈴鹿市、津市、伊賀市、伊勢市他
合計	75	

## (7) 義援金・救援金の受付

令和元年度に三重県支部が受けた義援金・救援金の状況は、次のとおりです。

義 援 金 名	件数	金額 (円)
国内義援金	東日本大震災義援金	15 598,021
	平成 28 年熊本地震災害義援金	10 216,699
	平成 29 年 7 月 5 日からの大雨災害義援金	4 28,384
	平成 30 年 7 月豪雨災害義援金	12 260,965
	京都府京都市伏見区で発生した放火事件に係る被害者義援金	3 2,755
	令和元年 8 月豪雨災害義援金	11 352,622
	平成 30 年北海道胆振東部地震災害義援金	8 1,434,583
	令和元年台風第 15 号千葉県災害義援金	15 560,784
	令和元年台風第 15 号東京都義援金	2 6,939
	令和元年台風第 19 号災害義援金	101 10,930,974

救 援 金 名	件数(件)	金額 (円)
海外救援金	中東人道危機救援金	3 12,573
	バングラデシュ南部避難民救援金	2 11,301
	2019 年モザンビークサイクロン救援金	2 1,900

## 2. 国際活動

近年、世界各地で頻発している紛争や自然災害、感染症などにより多くの人々が被害を受けています。日本赤十字社は、一人でも多くのいのちを守るために、国際赤十字の一員として、192 カ国の赤十字社・赤新月社、赤十字国際委員会、国際赤十字・赤新月社連盟と連携して、「緊急救援」と「開発協力」の活動を展開しています。三重県支部は、第3ブロック支部（愛知、岐阜、静岡、福井、石川、富山、長野）と協議しながら支援事業を実施しました。

### (1) 第3ブロック支部参加国際活動支援事業

#### ① シリア難民支援事業

シリアの紛争により、隣国レバノンには 100 万人以上の難民が流入しています。難民の多くは、テントを張って住んでおり、生活環境は非常に劣悪です。特に給水や衛生面の改善が課題であり、日本赤十字社は災害管理ユニットを支援し、水

関連の脆弱性の改善に取り組みました。

### ②東アフリカ地域 2 カ国 地域保健強化事業

東アフリカ地域は自然災害や紛争、テロが頻発する上、保健指導の低さや貧困率の高さなど、様々な課題を抱えています。日本赤十字社は防災や疫病活動の啓発を行うとともに、衛生用品の配布などの支援を行いました。

### ③アジア・太平洋州給水・衛生災害対応キット支援事業

アジア太平洋州諸国では、洪水やサイクロンなどの災害が増加しており、災害時の給水・衛生活動のニーズに対応するため「給水・衛生キット」を整備しました。



(シリア難民支援事業)



(アジア・太平洋州給水・衛生キット支援事業)

## (2) 国際救援・開発協力要員の養成

本社主催の国際救援・開発協力要員養成研修に職員を派遣し、海外での活動に備えるため、本社の国際救援要員として2名を登録しました。

## (3) 「第37回NHK海外たすけあい」キャンペーンの実施

12月1日から25日まで、日本放送協会（NHK）及び社会福祉法人 NHK 厚生文化事業団との共催により「第37回NHK海外たすけあい」キャンペーンを実施しました。

当支部では、NHK津放送局をはじめ、(株)百五銀行、(株)三重銀行、三重県信用農業協同組合連合会、三重県信用漁業協同組合連合会等の協力のもと救援金の募集を行いました。

	受付件数	募集金額
三重県支部取扱分	1,973 件	13,685,071 円

### 3. 医療事業

当院は『人道に基づき 赤十字病院として質の高い医療を提供します』という理念のもと、伊勢志摩地域において高度急性期・急性期医療、救急医療の提供を使命と捉え、医療事業を展開しています。

手術支援ロボットの活用をはじめ、高度で先進的な医療設備を積極的に導入するとともに、医療者の育成にも努め、患者さんに安心・安全な高品質の医療を提供できるよう努めています。また、地域の医療機関との連携を強固にし、紹介患者さんの円滑な受け入れを進める一方で、入退院支援機能の強化を図り後方連携にも率先して取り組みました。入院前の段階から患者さんの状態や生活様式を把握することにより、患者さん一人ひとりにあつた医療を提供することはもちろん、退院後に必要となる医療サービスに対しても早期から相談・連携できる体制を構築し、患者さんが退院後に安心して住み慣れた環境に戻れるよう支援を進めています。



#### (1) 当院の現況

##### ①施設概要

当院は35の診療科を標榜し、許可病床数は655床（うち4床は感染症病床）を有し、ICU・CCU、HCU、SCU、NICU、GCUなど各種集中治療室や救命救急センターを備え、あらゆる疾病に対して高度で専門的な医療を24時間365日提供できる体制を整えています。

##### ア 許可病床数（令和2年3月31日）

一般病床	651床
感染症病床	4床
計	655床

## イ 診療科目（35 科）

血液内科	感染症内科	肝臓内科	糖尿病・代謝内科
呼吸器内科	消化器内科	循環器内科	腎臓内科
脳神経内科	精神科	小児科	外科
乳腺外科	整形外科	リハビリテーション科	脳神経外科
呼吸器外科	心臓血管外科	産婦人科	泌尿器科
皮膚科	眼科	頭頸部・耳鼻咽喉科	放射線診断科
放射線治療科	麻酔科	腫瘍内科	歯科口腔外科
緩和ケア内科	形成外科	総合内科	病理診断科
脳血管内治療科	リウマチ・膠原病科	新生児科	

## ②令和元年度診療実績

令和元年度の実績は、入院患者延数が 215,185 人と前年度より 2,977 人減少し、病床稼働率も 89.76% と前年度より 1.49pt 低下しました。しかし、入院診療単価が 75,603 円と前年度より 2,156 円増加しており、入院診療収益は 162 億円（前年度比 1.53% 増）を計上しました。外来におきましては、患者延数が 257,603 人と前年度より 1,274 人増加しました。さらに外来診療単価が 24,686 円と前年度より 1,492 円増加し、外来診療収益は 63 億円（前年度比 6.96% 増）を計上しました。その結果、令和元年度の収益合計は 241 億円と過去最高を計上し、収支差引は 4 億 3 千万円を超える黒字となりました。

### ア 患者延数

(人)

	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度
入院患者延数	235,249	224,237	226,514	218,162	215,185
一日平均	643	614	622	598	588
新入院患者数	16,931	17,370	17,565	17,589	17,468
外来患者延数	224,355	250,649	252,083	256,329	257,603
一日平均	1,010	1,032	1,037	1,055	1,073

### イ 平均在院日数

(日)

	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度
平均在院日数	13.3	12.3	12.2	11.7	11.7

ウ 診療単価（一日一人あたり） (円)

	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度
入院診療単価	66,802	68,723	68,675	73,447	75,603
外来診療単価	18,656	20,038	22,032	23,194	24,686

エ 医業収益 (百万円)

	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度
入院診療収益	15,715	15,410	15,555	16,023	16,268
外来診療収益	4,558	5,022	5,553	5,945	6,359
その他	444	442	449	476	470

オ 収益的収支 (百万円)

	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度
収益的収入	21,823	21,955	22,638	23,547	24,135
収益的支出	22,020	22,212	22,577	23,680	23,696
差引収支	-197	-257	61	-133	439

③地域医療

ア 地域医療支援病院として

少子高齢化等の社会情勢の変化を背景に、平成 29 年 3 月、三重県地域医療構想が策定され、当院は全県的な見地から高度急性期・急性期の機能を担うことが期待されています。当院では、地域医療支援病院として、かかりつけ医からの紹介患者受け入れ及び逆紹介の推進を図るとともに、医療機器の共同利用も積極的に進めるなど、円滑な地域連携の構築に取り組んでまいりました。地域において、かかりつけ医から急性期、回復期、慢性期、施設や在宅医療まで、患者さんを中心とした切れ目のない医療を提供できるよう、他の医療施設、介護・福祉施設とより一層連携を深め、地域医療に貢献しています。

【紹介推移】

	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度
紹介件数	28,479 件	28,001 件	27,739 件	27,716 件	26,812 件
紹介率	95.1%	95.0%	94.6%	95.4%	95.4%
逆紹介件数	18,106 件	18,853 件	20,355 件	20,133 件	19,894 件
逆紹介率	95.0%	101.8%	115.9%	117.8%	117.0%

④高度先進医療

ア 地域がん診療連携拠点病院として

### (ア) 専門的ながん医療を提供するための体制の充実

当院は、地域がん診療連携拠点病院に認定されており、手術療法、化学療法、放射線療法などを効果的に組み合わせた集学的治療を実施しています。5大がん（肺がん、胃がん、肝がん、大腸がん、乳がん）をはじめ、口腔がんに対してIVRによる持続動注化学療法を施行するなど、多種類のがんに各専門診療科が対応しています。16室の手術室を活用し、月に100件を超えるがん手術に対応するとともに、IMRT（強度変調放射線治療）可能な高精度放射線治療装置2台による放射線治療（リニアック）も行っています。また、化学療法においては50ベッドを有するがん化学療法室に専任看護師、薬剤師を配置し、各診療科の化学療法患者を集約化しています。これにより多くの患者さんに対する、外来での化学療法を可能としています。患者さんの負担軽減・利便性を最大限考慮し、入院のみならず外来での化学療法も組み合わせた治療を行っています。

#### 【令和元年度実績】

○がんの手術件数	1,186 件
○リニアック	9,604 件
○がん化学療法	10,967 件

### (イ) 手術支援ロボットの導入

平成30年9月より、内視鏡下手術支援ロボットda vinciを導入し、前立腺がん、腎がんに対してロボット支援手術を実施しています。ロボット支援による手術は、人の手よりも正確で精緻な動きが可能になることにより、術後の機能温存の可能性が高まり、合併症のリスク回避が見込まれます。患者さんのQOL向上につながることから、対象手術領域の拡大にも取り組んでおり、今年度は消化器外科領域でもロボット支援手術が可能となりました。今後は婦人科領域にも導入予定です。

#### 【令和元年度実績】

○ロボット支援手術実績	
・前立腺がん	73 件
・腎がん	15 件
・直腸がん	4 件

### (ウ) 緩和ケア体制の充実

当院では、緩和ケアを「病気に伴う心と体の痛みを和らげること」と捉え、患者さんとそのご家族に対して緩和ケア内科医、看護師、薬剤師、臨床心理士、医療ソーシャルワーカー、管理栄養士、理学療法士、ボランティアなどがチームを組んで緩和ケアを行っています。伊勢志摩地区では初となる緩和ケア病棟

を開設し、全室個室の病床を 20 床確保して緩和ケアにあたるとともに、緩和ケア外来を週 3 日実施しており、症状緩和外来、リンパ浮腫外来、緩和ケア入院相談外来を行っています。さらに、緩和ケアに関する専門的な知識・技術を持つスタッフにて構成された「がんサポートチーム」が、主治医や担当看護師に、緩和ケアに対する助言をしたり、直接患者さんやそのご家族のケアをしたりするなどのサポートをしています。

#### 【令和元年度実績】

○緩和ケア病棟入院患者延数	4,313 人
○緩和ケア外来患者延数	265 人
(内訳) 症状緩和外来患者延数	85 人
リンパ浮腫外来患者延数	131 人
緩和ケア入院相談外来患者延数	49 人

### イ 脳疾患

#### (ア) 脳卒中

脳卒中に対しては、発症後できるだけ早く専門病院にて治療を開始することが、生命予後だけでなく機能的な予後の改善にも重要です。当院は、脳卒中センターを開設し、脳神経外科と脳神経内科が共同して 24 時間 365 日迅速に対応できる体制を構築しています。発症後 4.5 時間以内の脳梗塞に有効とされる t-PA 静注療法、脳血管内治療、脳神経外科手術の施行、脳卒中ケアユニット (SCU) での専門スタッフによる集中治療等を提供しています。

#### 【令和元年度実績】

○t-PA 療法実施件数	60 件
○脳血管内治療件数	151 件
○SCU 管理患者延数	2,136 人

#### (イ) 脳動脈瘤

脳動脈瘤が破裂すると、くも膜下出血をきたし、生命に危険が及ぶ大変危険な疾患です。そのため脳動脈瘤内への血流を遮断し、出血を回避する必要があります。当院では、開頭し動脈瘤の根元に特殊クリップをかけるクリッピング術、血管内からカテーテルを用いて動脈瘤にアプローチしコイルを詰めて動脈瘤を閉塞するコイル塞栓術を主に実施しています。

#### 【令和元年度実績】

○脳動脈瘤頸部クリッピング術	49 件
○脳動脈瘤に対する血管塞栓術	4 件

## (ウ) 脳腫瘍

脳腫瘍に対しては蛍光顕微鏡、神経内視鏡を用いた、正確で高度な技術を要する外科的手術を施行しています。手術の進行に伴い脳の状態が刻々と変化するため、より安全かつ確実に腫瘍を切除するためには、術中にMRI撮影を行い脳の状態を確認しながら手術を進める必要があります。当院は全国的にも数少ない、MRIを併設した手術室を整備しており、より正確で安全な腫瘍摘出術が可能となっています。

### 【令和元年度実績】

○頭蓋内腫瘍摘出術	40 件
-----------	------

## ウ 心・血管疾患

### (ア) 冠動脈疾患、大動脈疾患、不整脈

現在、冠動脈疾患をはじめ、不整脈や弁膜症などの心疾患に対しては、低侵襲で患者さんへの負担が少ない経カテーテル的治療が有用です。当院においても循環器内科での経カテーテル的治療を第一選択として治療を行っています。一方、心臓血管外科との連携により、経カテーテル的治療が困難な症例への外科的手術の施行や、緊急時の迅速なバックアップに対しても万全の体制を構築しています。

また、心臓血管外科における急性大動脈解離や大動脈瘤に対する治療では、開胸による人工血管置換術だけでなく、経カテーテル的にステントグラフトという人工血管を大動脈に内挿するより低侵襲な手術も施行しています。

心臓や大血管に対する術後管理や、循環器系の救急患者に対する集中治療は、人工呼吸器や人工心肺装置などの生命維持装置を備え、専門的な知識やスキルを持った医療スタッフを配置したICU/CCUにて常時対応できる体制を整えています。

### 【令和元年度実績】

○PCI 実施件数	365 件
○CABG 実施件数	43 件
○大動脈人工血管置換術（開胸）	76 件
○ペースメーカー移植術	93 件
○両心室ペースメーカー移植術	10 件
○植込型除細動器移植術	7 件
○両室ペーシング機能付き植込型除細動器移植術	4 件
○大動脈ステントグラフト内挿術（血管内治療）	29 件
○経皮的カテーテル心筋焼灼術	244 件
○ICU/HCU 管理患者延数	1,526 人 / 1,851 人

#### (イ) TAVI、リードレスペースメーカーなどの先進的治療

平成 27 年 10 月には、高齢化等によるリスクで開胸手術が受けられない弁膜症患者に対して、経カテーテル的に低侵襲な人工弁置換が可能な TAVI（経カテーテル大動脈弁置換術）の実施施設にも認定されました。当院では既に 150 症例以上を経験しています。

また、平成 29 年 9 月から保険適応となったリードレスペースメーカー植込術も実施しています。本体を皮下に植え込み、カテーテルを用いて心臓内に直接デバイスを留置するため、合併症のリスクも少なく、胸部の傷やふくらみもないため、術後の QOL 向上も期待されます。

#### 【令和元年度実績】

○TAVI 実施件数	47 件
○リードレスペースメーカー植込術実施件数	5 件

#### オ 地域周産期母子医療センターとして

当院は地域周産期母子医療センターの認定を受けており、10 人の小児科医をはじめ専門スタッフにより NICU9 床、GCU6 床を運用しています。産婦人科と小児科が協力して、早産児、ハイリスク新生児に対応するとともに、重篤な合併症を持つ母体の管理も、各専門診療科と協力して行っています。

#### 【令和元年度実績】

○NICU/GCU 管理患者延数	2,138 人 / 260 人
○分娩件数	248 件
○ハイリスク妊娠管理加算算定件数	650 件 (86 人)
○ハイリスク分娩管理加算算定件数	375 件 (70 人)

#### ⑤救急医療

##### ア 救命救急センターとして

県南で唯一の救命救急センターとして、救命病棟を 30 床整備しています。心疾患・脳疾患・周産期・小児疾患等の各分野において、専門性の高い救急医療を 24 時間 365 日提供しています。伊勢志摩区域はもとより、県南部の救急医療における最後の砦であるとの自覚を持ち、「決して断らない救急」を掲げ、三次救急のみならず二次救急も積極的に受け入れています。平成 31 年 4 月からは、新たに救急専門医を採用し、体制強化も図りました。令和元年度の救急車受入台数は、9,855 件と全国有数の実績となっており、そのうち 6,906 人が緊急入院を要する救急患者でした。なお、厚生労働省「救命救急センターの評価結果（平成 31 年～令和元年）」では、救急車の受け入れ件数全国 14 位、重篤患者受け入れ数全国 12

位となっています。

### 【救急外来患者来院状況】

	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度
救急外来患者数 (うち、入院数)	16,902 人 (6,678 人)	16,906 人 (6,861 人)	17,633 人 (7,108 人)	17,628 人 (7,056 人)	17,601 人 (6,906 人)
(再掲)救急車来院 (再掲)うち、入院数	9,139 人 (4,196 人)	9,250 人 (4,362 人)	9,942 人 (4,666 人)	10,130 人 (4,603 人)	9,855 人 (4,569 人)

### イ ドクターへリの運航

当院は、三重大学医学部附属病院と 2 か月交代でドクターへリの交互運航を行っています。基地病院として、フライドクター・フライナースを育成し、安定的な運航継続ができるよう努めています。

また、ドクターへリでの搬送患者の受け入れも積極的に行っており、令和元年度の運航件数 296 件のうち、半数以上の 155 件を当院が受け入れました。

### 【ドクターへリ運航状況】

	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度
ドクターへリ運航件数 (うち、当院受入件数)	422 件 (256 件)	397 件 (199 件)	385 件 (205 件)	320 件 (173 件)	296 件 (155 件)

## ⑥災害医療

### ア 地域災害拠点病院として

国内、国外の災害時における医療救護は赤十字としての重要な使命です。被災地への迅速な救護班の派遣はもちろん、当地域での災害発生時は、地域災害拠点病院として常に傷病者を受け入れできる体制を構築しています。

常設の救護班 8 班は、知識とスキルを習得すべく定期的に研修を受講し、DMAT 隊 5 チームも各種訓練へ積極的に参加するなど、日々の研鑽を欠かさず行い、技能の維持向上に努めており、いつ何時でも救護活動が展開できる体制を整えています。

また、部門別・職種別に年数回、災害時スキル研修や図上訓練を行うと共に、年に一度、病院全体での大規模災害訓練を消防と合同で実施しています。今年度は、局所災害（近隣老人保健施設での爆発事故）の発生を想定し、多数傷病者のトリアージ、収容、病院機能維持を目的とした訓練を実施しました。訓練後の振り返りでは、問題点の検討を行うとともに、BCP（事業実施計画）の見直しも行い、より実効性の高い BCP 策定に努めています。



(令和元年度救護班任命式)



(大規模災害訓練)

#### イ 10月豪雨災害へのこころのケア班の派遣

令和元年10月12日に東日本に上陸した台風19号では、被災県及び日本赤十字社本社の要請を受け、長野県にこころのケア班1班（看護師2名・公認心理師1名・事務1名）を派遣しました。10月26日から28日までの3日間、長野市内の各避難所を巡回し、地元保健師と連携を取りながら、延べ13か所の避難所において、ハンドマッサージなどをを行いながら、被災者のこころのケアを行いました。



(避難者への血圧測定)



(ハンドケア)

#### ウ 新型コロナウイルスにかかるDMATチーム及び職員の派遣

令和2年2月、横浜港に停泊していた客船「ダイヤモンド・プリンセス号」での新型コロナウイルス感染者が多数発生しました。当院も厚生労働省からの要請を受け、2月19から21日にDMATチーム（医師2名、看護師1名、臨床工学技士1名、主事1名）を神奈川県へ派遣しました。神奈川県庁に設置された神奈川県DMAT調整本部にて、受入可能病床や船内の情報収集を行い、医療機関への受入交渉等の調整業務を行いました。続く2月23から24日には、愛知県庁に設置された愛知県保健医療調整本部へ職員（医師1名、主事1名）を派遣し、乗船客の収容先選定や搬送方法等について、関係各機関と調整する業務支援を行いました。



(神奈川県 DMAT 調整本部)



(愛知県保健医療調整本部)

#### ⑦へき地医療拠点病院として

医療過疎地域が存在する三重県南勢地区において、当院はへき地医療拠点病院として、積極的に医療過疎地域との連携を進め、スタッフ不足の病院への医師派遣など診療支援を行っています。また、三重県バディホスピタル・システムにおいて、尾鷲総合病院とバディを組み、年間を通して4人の医師を3月交代で派遣しており、地域全体の健康増進を図ることに貢献しています。この取り組みは、当院の医師にとっても、離島を含めた医療過疎の地域で生活し、地元の方々と触れ合うことで、その現状を把握し地域医療のあり方を学ぶ良い機会となっています。

#### 【令和元年度派遣実績】

○医師派遣医師延数（鳥羽市：離島）	2人
○医師派遣医師延数（尾鷲総合病院）	4人

#### ⑧在宅復帰支援への取り組み

##### ア 在宅療養へ向けた取り組み

退院後、在宅療養が必要となる患者さんに対して、MSW と在宅療養支援室担当看護師が協働し、福祉・医療の両方の視点から自宅での生活について相談を行っています。患者さんとご家族の意向をうかがいながら、身体的・医療的状況に応じて、かかりつけ医の紹介、介護サービスの提案などを行い、地域の中で安心して生活を送っていただけるようサポートしています。また、住み慣れたご自宅で安心して過ごせるよう、訪問看護ステーションを併設し、在宅における医療処置の支援に対応しています。

##### イ 医療ソーシャルワーカーによる支援体制

医療ソーシャルワーカーは、疾病によってもたらされる様々な社会的、経済的問題を解決し、患者さんやそのご家族が安心して医療を受けられるよう支援して

います。相談者の背景には、高齢者世帯の増加、夫婦共働き、核家族化や家族関係の希薄化等、多岐にわたる現代特有の社会問題があり、支援の内容は複雑化しています。急性期の病院としての役割、がん相談支援センターとしての役割を担いながら、11名のソーシャルワーカーが、各病棟を担当し対応しています。退院が困難となる患者さんに対して、スクリーニング、病棟カンファレンスを行い、早期退院に向けた支援を行っています。特に緊急入院された患者さんは入院が長期化する傾向にあり、それまでの生活様式が一変することも少なくないため、積極的な支援が必要となっています。

### ○医療ソーシャルワーカーの相談対応実績

相談者数(人)	実人数	延人数	
	7,787	19,834	
援助内容(件)			
家族関係に関すること	252	在宅介護・地域生活に関すること	3,487
療養生活に関すること	5,044	経済的問題に関すること	525
就労・職場環境に関すること	57	教育環境・就学に関すること	2
虐待・暴力・人権に関すること	17	受診・受療に関すること	709
転院に関すること	8,676	他施設利用に関すること	1,404
心理的・情緒的問題に関すること	38	他福祉関係法利用に関すること	2,040
その他	175		

## (2) 病院機能向上の推進

### ①入退院支援強化の取り組み

入退院管理室では、患者さんが安心して入院生活を送れるよう、看護師、MSW、薬剤師、管理栄養士、事務職員より、入院生活や治療内容についての事前説明を行っています。また、入院前から患者さんの生活状況や栄養状態、服薬状況などの情報を把握し、病棟スタッフとの連携により患者さん一人ひとりのニーズに応じた医療の提供に努めています。さらに、退院後の生活を見据え、少しでも早く住み慣れた地域に戻れるよう、適切な退院支援を入院前から始めています。今年度はその機能強化を重点的に行い、診療報酬上の評価である入退院支援加算、入院時支援加算の算定向上に取り組みました。

#### 【令和元年度実績】

○入退院支援加算算定件数	6,943 件
○入院時支援加算算定件数	2,383 件

### ②チーム医療の推進

医療の高度化・複雑化に伴う業務の増大に対応するため、専門知識を有する多

種多様なスタッフが、目的と情報を共有し、業務を分担するとともに互いに連携・補完しあう「チーム医療」が注目されています。医師や看護師のみならず、あらゆる専門分野の職種が連携・協働し、それぞれの専門性を発揮することで、質の高い医療が可能となります。現在、当院では 17 の専門チームが活動中です。

### 【当院における多職種チーム】

ICT（感染制御チーム）、褥瘡対策チーム、NST（栄養サポートチーム）、口腔ケアチーム、呼吸サポートチーム、足創傷治療チーム、摂食嚥下チーム、がんサポートチーム、糖尿病チーム、心不全チーム、腎臓病内科治療選択チーム、緩和ケアチーム、精神科リエゾンチーム、認知症サポートチーム、TAVI チーム、退院支援チーム、医療安全ラウンドチーム

### ③医療安全への取り組み

医療安全推進室及びメディカルリスクマネジメント委員会を設置し、インシデントなどの各種レポートによる事例報告、原因分析及び医療安全研修への参加を推進しています。「安全な医療が全ての基本」という認識を全職員が共有し、患者さんに良質な医療を提供できるよう様々な医療安全推進活動を行っています。

医療安全研修では、外部から講師を招いた研修も開催し、日程上参加できなかった職員に向けたビデオ聴講も複数回開催、全職員が受講できる環境を整備しています。

### 【令和元年度 外部講師による研修テーマと参加者数】

講義	講師	受講者数(率)
医療人のためのリスク感性養成講座	旭川赤十字病院 脇田邦彦	1,250 人 (99%)
医療安全と医療メディエーション	日赤和歌山医療センター 直川匡晴	1,261 人 (98%)

### ④人材の育成

“医療は人であり、人材育成が重要である”という考え方の下、平成 18 年 4 月に研修センターを設立し、全職員を対象とした研修の企画・運営を行っています。研修内容は、全ての職種が共通して必要な知識を得るために全体研修をはじめ、キャリアに応じて必要な知識やスキルを獲得するための年次別研修や管理者研修、職種ごとの特性を踏まえた職種別研修などを、年度ごとに計画し実施しています。また、院内職員のみならず、地域の医療従事者も対象とした開放型研修も実施するなど、幅広く企画しています。

看護職員に対しては、看護師一人ひとりが自分の目標を明確にし、必要とされる能力開発を進めるため、キャリア開発ラダーシステムを導入し、看護の質の向

上をはかっています。

職員研修においては、知識の習得やスキルアップだけでなく、職種間の連携が図られることや、地域の医療従事者の方と共に学ぶ場をもつことで、チーム医療が促進され、さらに地域連携が強化され、医療の質の向上につながることが期待されます。

### 【令和元年度開講実績】

○研修数 239 件（開催延数 475 回）

○当院のカリキュラムデザイン

STEP5	論理的思考Ⅴ	管理者研修Ⅰ 管理者研修Ⅱ 管理者研修Ⅲ	①Humanity Education  ②TQM活動支援研修 TQM発表大会	I 救護班要員登録者研修 II 医療安全研修会 III 病院防災研修会 IV 赤十字職員研修 V 事務職研修 VI 看護職研修 VII 研修医セミナー VIII 専門コース IX トピックス X 救急標準化教育	
STEP4	論理的思考Ⅳ				
STEP3	接遇Ⅱ（3年目） 論理的思考Ⅲ				
STEP2	論理的思考Ⅱ				
STEP1	病院組織論 赤十字概論 医療安全概論 医療安全方法論Ⅰ・Ⅱ 接遇Ⅰ 論理的思考Ⅰ				
	入職時・ 年次別研修	管理者研修			
			全体研修	課題選択研修	フォローアップ研修
					赤十字の理念

1. 赤十字の理念である「人道」に基づいた実践ができる  
2. 地域の中核病院として対象に応じた最善の医療が提供できる  
3. 自ら変革を推進し、成長と進化を継続できる

### ⑤働きやすい職場環境を目指して

#### ア 働き方改革に向けた取り組み

「医療従事者の働き方改革」については、2024年4月から医師の時間外労働の上限規制が適用される予定となっており、国はタスクシフティング、タスクシェアリング、チーム医療の推進等により医療者の負担軽減を図ることを推進しています。当院においても医療の質が担保された「医療従事者の働き方改革」を実現させるため、「医療従事者の負担軽減及び処遇改善に資する計画」を作成し毎年達成状況の確認と計画の見直しを行っています。外来診療の縮小やチーム医療の推進、医師事務作業補助者や看護補助者の配置による負担軽減を進めており、今後はチーム主治医制の導入や、当直体制の見直しなどさらなる負担軽減と処遇改善を目指してまいります。

### 【関連する届出施設基準】

医師事務作業補助体制加算 1 (15 対 1)

## 25 対 1 急性期看護補助体制加算（看護補助者 5 割以上）

### イ 仕事と子育ての両立支援

当院では、職員が働きながら安心して子育てができるよう、妊娠・育児期間中の夜勤免除や短時間勤務制度が利用できる体制を整備するとともに、敷地内に院内保育所「のぞみ」を併設しています。小学校就学前の職員の児を対象とした施設で、職員の就業時間に合わせた託児が可能となっています。準夜勤務、夜勤勤務時や当直時でも利用できるよう、24 時間保育としています。また、育休や産休など長期休暇からの職場復帰者を対象に、フォローアップ研修を行っており、スムーズな職場への復帰をサポートしています。

#### 【令和元年度のぞみ利用実績】

○利用者数(延数)	4月	53人 (486人)	10月	53人 (465人)
	5月	59人 (487人)	11月	54人 (559人)
	6月	46人 (478人)	12月	52人 (558人)
	7月	47人 (516人)	1月	56人 (525人)
	8月	54人 (461人)	2月	58人 (496人)
	9月	50人 (446人)	3月	57人 (590人)

### (3) 広報活動

#### ①広報戦略委員会の立ち上げ

令和元年2月には、病院としての広報のあり方を見直すべく、広報戦略委員会を設置しました。従来の広報では、各部署が必要に応じて伝えたい情報を一方的に発信しており、それらは必ずしも受け手側が求めるもの、理解しやすいものではありませんでした。新たに設置した広報戦略委員会では、病院理念や基本方針に沿った統一認識のもと、患者さんをはじめ医療に関わる方々に有益な情報を与え、病院知名度の向上、イメージアップを図るとともに、優秀な人材を確保することを目的に広報活動について協議しています。対象者ごとに4つの広報目的を設定し、ワーキンググループを組織しており、受け手目線の情報発信を目指し、活動を行っていきます。

#### 【委員会内ワーキンググループ】

- 人材確保：当院への就職を検討する学生や医療従事者に向けた広報活動
- 院外広報：患者さんやそのご家族、地域住民に向けた広報活動
- 地域連携：地域医療と共に築く医療機関に向けた広報活動
- 院内広報：当院で働く職員に向けた広報活動

## ②ゆずりは祭の開催

「地域住民の方に当院をもっと知ってもらいたい。もっと親しんでもらいたい。医療に興味を持つてもらいたい。そして地域医療の必要性を理解していただきたい。」という思いを伝えるため、平成25年度より毎年『ゆずりは祭』開催しています。

ドクターへリ見学会や、身体年齢・脳年齢の測定、血管の硬さチェック、スタンプラリーなど幅広い年齢の方が楽しめる企画を用意している他、子どもたちが医師・看護師の衣装を着る「なりきりブース」も設置し、将来的に医療者を志してもらえるような取り組みも併せて行っています。



(のぞみ保育園の園児による発表)

## ③医療の現場体験ツアーの実施

当院では、毎年夏休み期間に県内の中学生・高校生を対象に「医療の現場体験ツアー」を実施しています。医療現場での実体験を通じた次世代の地域医療の担い手への医療教育、進路決定や学習のモチベーション向上の試みとして行っています。令和元年度は、8月9日に開催し県内各地から152名の方に参加いただきました。

院内に、「いのちを救うわざのゾーン」「コードブルードクターへリのゾーン」「採血体験ゾーン」「バイタルサイン測定ゾーン」「手洗い体験ゾーン」などの体験会場を設け、医療現場を体験していただきました。

体験終了後のアンケートでは、「貴重な体験ができてよかったです」、「医師・看護師になりたいという思いが強くなった」などの感想をいただきました。



(いのちを救うわざのゾーン)

## (4) 付帯事業

少子高齢化が急速に進む中、地域包括ケアシステムにおける切れ目のない医療と介護の連携への必要性が高まっています。当院の付帯事業である伊勢赤十字老人保健施設「虹の苑」と伊勢赤十字訪問看護ステーションでは、利用者の方に対し在宅復帰及び在宅生活の支援、看取りケアサービスを提供しています。

## ①伊勢赤十字老人保健施設「虹の苑」

伊勢赤十字老人保健施設「虹の苑」では、「人道に基づき人々に笑顔と安らぎを」を理念に掲げ、利用者の方のニーズに合わせ在宅復帰支援サービスを提供しています。医療機関を退院し在宅復帰を目指す、要介護高齢者の方に対して、入所サービスとして100床のベッドを整備し、食事、入浴、機能回復訓練等を通じて、自立生活の支援をいたします。また、一時的に在宅での介護が困難になった方に対して、空床を利用してリハビリ等の在宅復帰支援を行う短期入所サービスや、ご家庭から通つてリハビリや食事介助のなど、在宅療養支援を受けていただぐ通所サービスも行っています。



### 【伊勢赤十字老人保健施設「虹の苑」の利用状況】

○入所サービス利用者数（延人数）	28,370人
○短期入所サービス利用者数（延人数）	2,561人
○通所サービス利用者数（延人数）	4,300人

## ②伊勢赤十字訪問看護ステーション

病気や障害を持ちながらご家庭で療養されている方に対して、住み慣れたご自宅で安心して療養生活が送れるよう、かかりつけ医の指示のもと、訪問看護サービスを提供しています。伊勢赤十字病院との連携により、がん看護の専門知識を持った専門看護師による同行訪問も行っており、より専門性の高い訪問看護サービスを利用いただけます。



### 【令和元年度実績】

○訪問看護利用者数	797人
○訪問回数	5,659回

## 4. 赤十字看護師の養成

第3ブロック（東海北陸・長野の8県）の看護大学として平成16年に愛知県豊田市に開学した日本赤十字豊田看護大学では、看護に関する幅広い能力を備え、保健医療、国内外の医療救援活動などさまざまな場で広く活躍できる資質の高い赤十字看護師を養成しています。

令和元年度には、三重県支部長推薦の14名の奨学生が同学で学びました。

令和2年3月にはその内4名が卒業し、伊勢赤十字病院へ就職しました。

現在、伊勢赤十字病院では支部長推薦により同学を卒業した看護師27名が勤務しています。

### ① 令和元年豊田看護大学支部長推薦養成数

	平成28年度 入学生	平成29年度 入学生	平成30年度 入学生	令和元年度 入学生	計
養成数	4名	4名	3名	3名	14名



(豊田看護大学授業風景)

## 5. 血液事業

三重県赤十字血液センターでは、「安全な血液製剤の安定供給の確保等に関する法律」及び「医薬品、医療機器等の品質、有効性及び安全性の確保等に関する法律」に則り、採血事業者及び製造販売業者として適正な事業運営にあたり、県内の医療機関で患者さんが必要とする安全な血液製剤を安定的に供給することに努めています。

また、平成24年度から血液事業は広域事業運営体制で実施され、当センターは東海北陸ブロック血液センターに所属し運営しています。

今後、少子高齢化が進行する中で、将来の安全な血液製剤の安定供給は必要不可欠な課題となっています。そのため、若年層を対象とした献血確保対策として、高校生献血セミナーなどを行い、将来に向けて継続的な事業運営ができるよう取り組みました。

### (1) 献血者の確保対策（実績等）

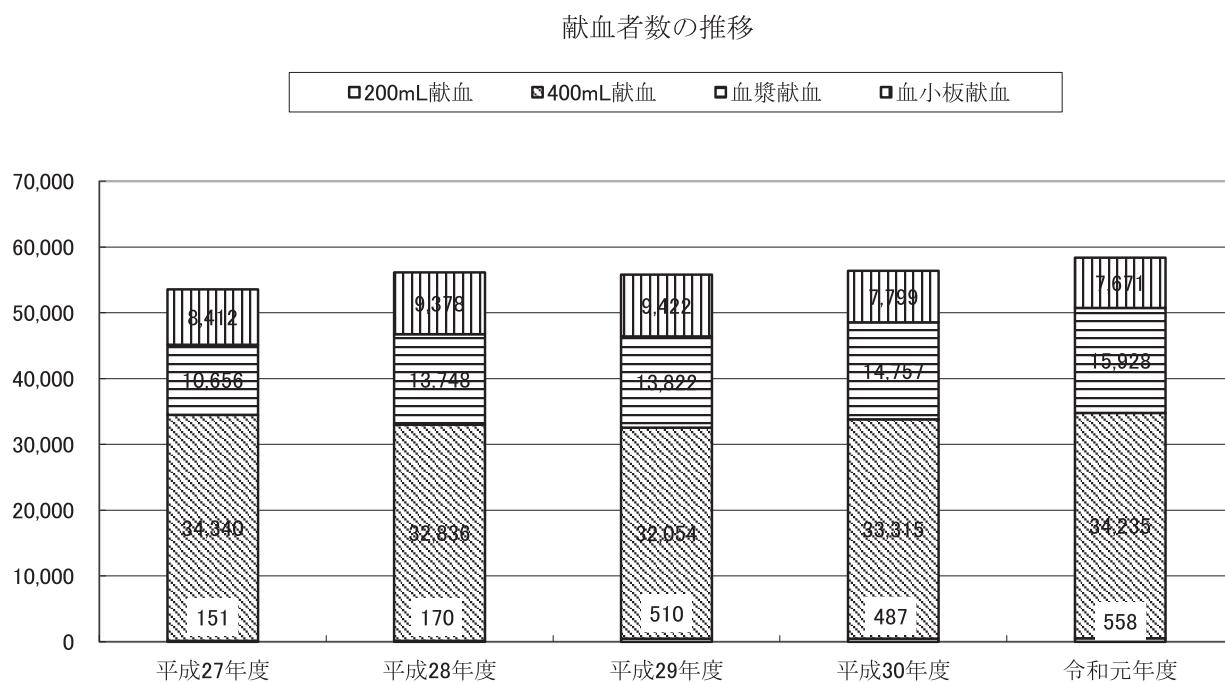
県内で必要な輸血用血液は、県内の献血で確保するという方針により需給実績

に基づいて採血計画を策定し、3か所（津市、四日市市、伊勢市）の献血ルームと県内を巡回する献血バスで献血を実施しています。

令和元年度献血者数は、全血献血（200mL、400mL）34,793人（前年度比102.9%）、成分献血（血漿、血小板）23,599人（前年度比104.6%）で、合計58,392人（前年度比103.6%）のご協力がありました。

東海北陸ブロック管内の広域事業運営体制では、医療機関の需要に見合った献血バスの配車（増減）を適宜行い、合理的な事業運営に努めた結果、県内及びブロック管内の輸血用血液を安定的かつ効率的に確保することができました。

年度		平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度
全 血	200mL献血	151	170	510	487	558
	400mL献血	34,340	32,836	32,054	33,315	34,235
成 分	血漿献血	10,656	13,748	13,822	14,757	15,928
	血小板献血	8,412	9,378	9,422	7,799	7,671
合計		53,559	56,132	55,808	56,358	58,392

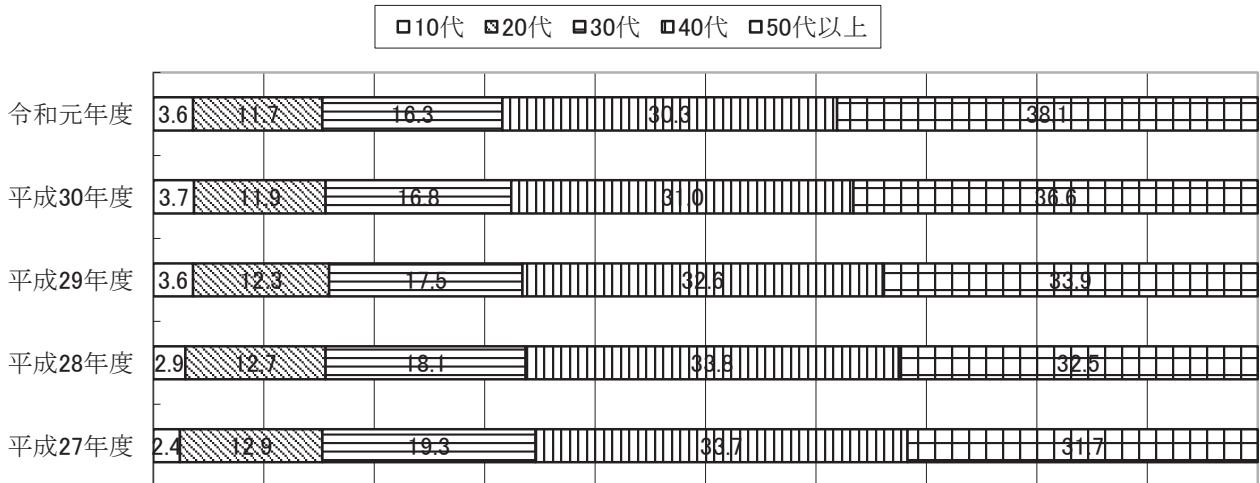


### ①献血者の確保対策等

献血者の年齢層に応じた普及啓発活動や献血者募集を行うとともに、10代・20代の若年層を対象とした活動、市町担当者と連携した活動、献血に協力していただける企業やボランティア団体と連携した普及啓発活動を実施し献血者募集活動などを行いました。また、三重県・日本赤十字社三重県支部と連携して献血啓発資材の配布など啓発活動も実施しました。

献血ルームにおいては、近隣団体・企業への献血協力依頼や施設周辺での呼びかけを強化したことにより、3施設で32,733人（対前年1,827人増、105.9%）を確保しました。

年代別献血者の割合



## ②若年層を対象とした取組

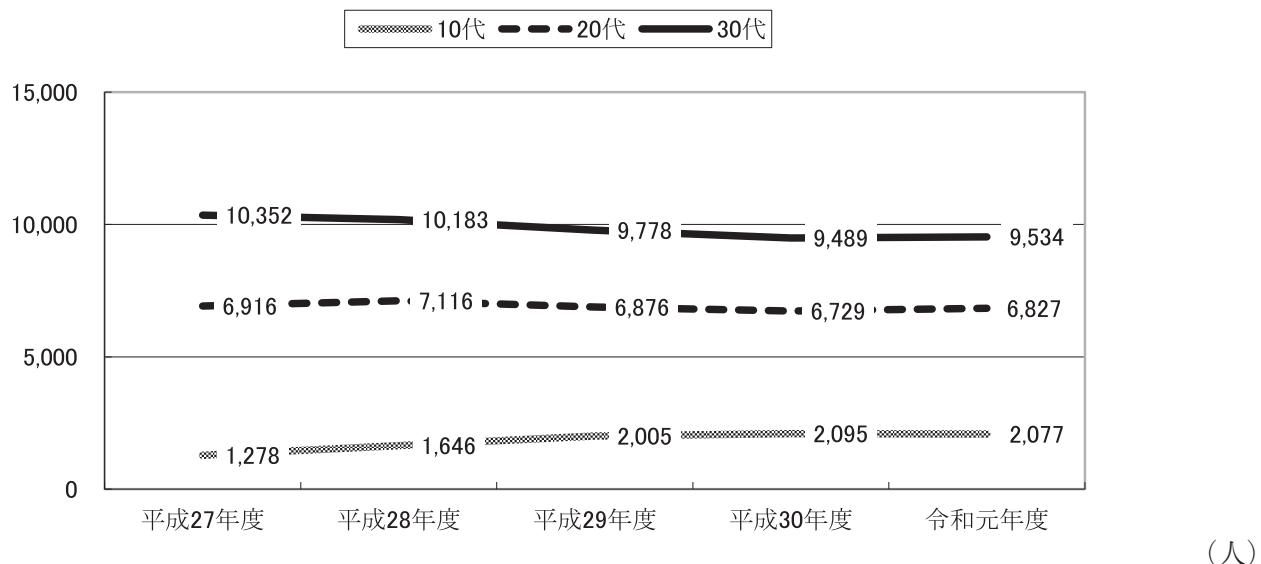
少子化の進行により将来の献血可能人口の減少が予測されることから、国の献血推進計画等を踏まえ、若年層を対象とした推進活動を強化しました。

令和元年度は高校生を対象とした若年層に、献血に触れ合う普及啓発活動「高校生献血セミナー」を実施するとともに、三重県学生献血推進連盟「みえっち」と連携し若年層をターゲットとしたキャンペーンの展開やソーシャルネットワークシステムを利用した啓発活動を行いました。

また、小学生や中学生等を対象に献血に触れ合う機会をつくる「親子献血教室」の実施や血液センターの受付スペースを自習室として開放するなど啓発活動を行いました。

令和元年度は、県教育委員会の働きかけ等により、20校の協力を得て高等学校へ献血バスを配車しました。（平成30年度：20校）

## 10代・20代・30代の献血者数の推移



年度	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度
10 代	1,278	1,646	2,005	2,095	2,077
20 代	6,916	7,116	6,876	6,729	6,827
30 代	10,352	10,183	9,778	9,489	9,534
40 代	18,074	18,952	18,204	17,494	17,691
50 代以上	16,939	18,235	18,945	20,551	22,263
計	53,559	56,132	55,808	56,358	58,392

### 【主な取組実績等】

- ア 三重県学生献血推進連盟「みえっち」による献血キャンペーンの実施
- イ 高校生献血セミナーの実施：57 校実施（県立高校、私立高校等）  
(県医療保健部、県教育委員会の協力による実施  
参加：11,840 人（平成 30 年度：15,057 人）)
- ウ 献血ポスターコンペティションの実施（東海北陸ブロック血液センター）
- エ FM三重による献血啓発、ソーシャルネットワークシステム（ツイッター、フェイスブック、LINEなど）を活用した若年層への献血啓発の実施



(サマー献血キャンペーン)



(高校生による献血バスパネル製作)

### ③企業・団体献血等の推進

400m L献血を安定的に確保するため、献血バスで県内の企業、事業所、公共施設等に訪問し、献血の協力をお願いしました。また、社会貢献活動の一つとして新規に献血に協力していただく企業や団体を募りました。

各企業、事業所等の協力が増え1車あたりの献血者数が増加したため、献血バスの配車を減らして事業効率が向上しました。

ア 令和元年度 献血協力企業・団体数：464社（うち新規9社）

イ 献血バスの献血者数 25,659人（前年度比 104.6%）

ウ 献血バス配車台数 558台（前年度比 7台減）

エ 献血バス1車あたりの献血者数 46.0人（前年度比 102.2%）

### ④複数回献血協力者の確保

安定した献血者の受入れのために、メールを利用したサービス（ラブラッド）への登録を推進しました。ラブラッドでは、全国すべての献血ルームでの献血予約が可能、ベッドの予約や依頼への応諾、アンケートの回答等でポイントが貯まるなど、献血者の利便性が向上しました。

献血会場では募集チラシを配布しラブラッド会員の増加に努めるとともに、はがき・電話による献血依頼を積極的に行うなど、複数回献血を働きかけました。

初回献血者は、街頭献血や固定施設での積極的な呼びかけなどを行うことにより、献血者数が増加しました。

ア ラブラッド登録者数：13,255人

イ 令和元年度献血者数のうち

・複数回献血者数：11,296人（前年度比 106.1%）

・初回献血者数：3,792人（前年度比 101.1%）

### ⑤献血推進キャンペーン等の実施

年間を通じて安定的に献血者を確保するため、県（保健所を含む）、市町、民間団体、日赤三重県支部等と当センターが連携し、時期に応じた献血推進キャンペーンを実施するとともに、当センターのホームページやLINE、フェイスブックなどのSNSを活用し、献血者の確保に努めました。

ア 愛の血液助け合い運動月間（7月～8月）

・県、市町、献血推進協議会及びライオンズクラブ等の献血推進団体と連携し  
県内各地での献血の実施と献血功労者表彰式の実施（8月8日）



（クリスマス献血キャンペーン）

- イ 複数回献血者確保キャンペーン（10月、12月、2月）
- ウ 献血ポスターデザインコンペティション（7月～9月）
- エ 全国学生クリスマス献血キャンペーン（12月）
  - ・大学生ボランティアを中心とする全国統一のクリスマス献血キャンペーンの実施
- オ はたちの献血キャンペーン（1月～2月）
  - ・新たに成人を迎える若者を対象としたキャンペーンの実施
- カ スプリング献血キャンペーン（3月）
  - ・献血が減少しがちな時期に献血を推進するキャンペーンの実施
- キ ふるさと企業献血応援キャンペーン（全4回）
  - ・県内企業からの協賛品を献血者に進呈

#### ⑥四日市献血ルーム「サンセリテ」の移転

四日市献血ルーム「サンセリテ」はこれまで入居していたビルの営業終了に伴い、令和2年2月1日にララスクエア四日市の5階に移転しました。新しい献血ルームでは献血者の皆様がくつろげるよう、おしゃれでカフェのような空間をコンセプトとし、幅広い年齢層の献血者の方から協力を得られる施設となりました。



(外観)



(受付・待合)

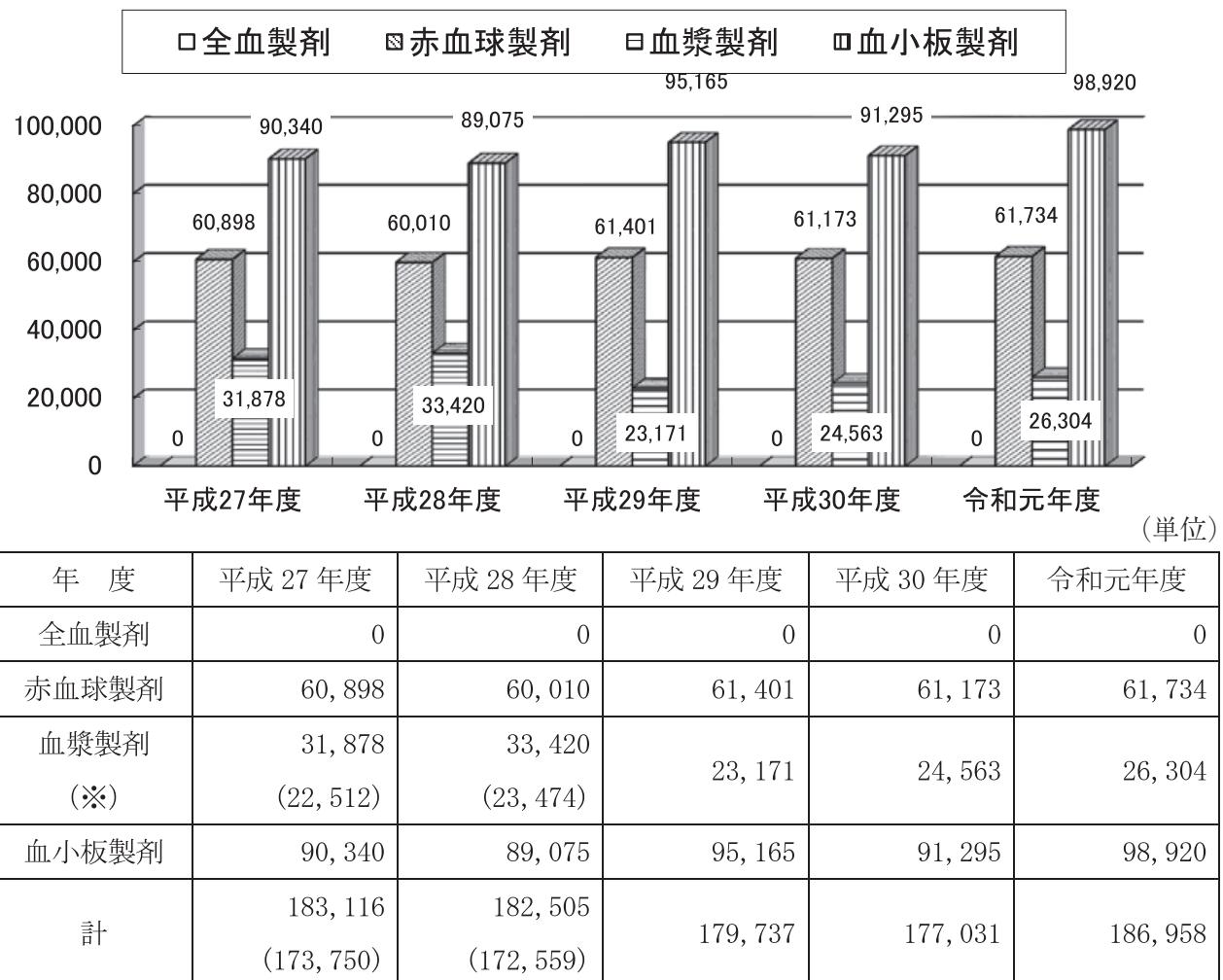
#### (2) 輸血用血液製剤の供給（実績等）

血液製剤の供給については、医療機関からの要請に応じ365日、24時間供給できる体制を整え、東海北陸ブロック血液センターと調整を図りながら安定的に供給しています。

令和元年度血液製剤の供給実績は、赤血球製剤61,734単位、（前年度比100.9%）、血漿製剤26,304単位（前年度比107.1%）、血小板製剤98,920単位（前年度比108.4%）で、合計186,958単位（前年度比105.6%）となり、県内の赤血球製剤の供給は県内の献血者で確保することができました。

※1単位は、200mL献血から製造される血液製剤の数量

## 血液製剤使用量(単位)の推移



※血漿製剤については平成 29 年度より単位の換算方法の変更があり、() 内の数字は平成 29 年度の換算方法による単位数を表示した。

### (3) 品質管理、安全対策等

血液の採取から搬送、保管、血液製剤の供給に至るまで、血液センターが関与するすべての段階において安全性の確保と品質管理が求められます。そのため、新たな感染症対策及び輸血後感染症対策をはじめとする品質システムを導入し、医薬品の品質に関する周知活動とともに、各種業務のモニタリングの分析・解析結果を踏まえ、輸血用血液製剤の品質向上と適正な品質管理に取り組んで参りました。また、東海北陸ブロック血液センター内で統一された教育訓練や自己点検を実施し、更なる品質の向上に取り組んでおります。

また、血液安全委員会等において、日常業務の人為的過誤に係る報告等を行い、危機管理面で危険要因の改善や防止策等に取り組みました。

#### (4) その他

三重県赤十字血液センターにおいて、骨髓バンク事業におけるドナー登録希望者の受付をしており、県内の保健所と連携し骨髓提供者の登録データ等の管理運営を行いました。

令和元年度 骨髓バンク提供者の登録者数：292人（対前年度 103人減）

## 6. 社会福祉活動

急速な高齢化社会において、地域社会に根ざした活動を展開しており、全施設が一体となって、保健・医療・福祉事業や地域住民の参加によるボランティア活動を行いました。

### (1) 高齢者福祉活動

- ①老人保健施設「虹の苑」の運営
- ②伊勢赤十字病院訪問看護ステーションの運営
- ③赤十字ボランティアを対象に施設慰問等の技術研修会の実施
- ④地域奉仕団、てのひら奉仕団において、老人福祉施設等への慰問

### (2) 健康増進事業

伊勢赤十字病院において、地域の健康福祉増進を図るために、赤十字健康大学を開催しました。

#### 【令和元年度 赤十字健康大学・病気と健康の講座】

開催日時	テーマ	講 師	参加者数
7月2日(火) 14:00～15:30	運動に関連する心疾患と 最近のカテーテル治療	伊勢赤十字病院 循環器科副部長 泉 大介	145人
7月30日(火) 14:00～15:30	「声」と「誤嚥」 加齢と声・誤嚥の関連	伊勢赤十字病院 耳鼻咽喉科部長 山田 弘之	
8月29日(木) 14:00～15:30	白内障と糖尿病網膜症について	伊勢赤十字病院 眼科部長 古田 基靖	131人
9月20日(金) 14:00～15:30	加齢などによる関節の痛みと変形 膝・足・股	伊勢赤十字病院 リハビリテーション科部長 森川 丞二	
10月29日(火) 14:00～15:30	症例から学ぶ気をつけたい 脳疾患	伊勢赤十字病院 第一脳神経外科部長 宮 史卓	118人
11月14日(木) 14:00～15:30	皮膚がん	伊勢赤十字病院 皮膚科部長 水野 みどり	

## 7. 救急法等の講習

日本赤十字社では、「苦しんでいる人を救いたいという思いを結集し、いかなる状況下でも、人間のいのちと健康、尊厳を守る」という使命を掲げて、各講習会の普及に取り組んでいます。

三重県支部は、「救急法」「水上安全法」「健康生活支援講習」「幼児安全法」の4つの講習を開催し、人々が安全で健康な生活を送ることができるよう、県内各地で講習普及事業を行いました。また、防災講習として非常食の炊き出しと共に、救急法や災害時高齢者支援講習を地域の防災訓練やイベントに取り入れての講習も実施しました。

### (1) 救急法

日常生活における事故に備えるとともに、病気やけが、災害から自分自身を守り、けが人や急病人を正しく救助し医師または救急隊員に引き継ぐまでの一次救命処置と応急手当の知識や技術について学ぶ救急法講習を県内各地で実施しました。



(心肺蘇生・AED講習)



(三角巾を使用した傷の手当)

#### ①救急法講習会開催状況

講習区分	講習科目	平成30年度 回数・受講者数	令和元年度 回数・受講者数
救急法基礎講習	傷病者への観察及び一次救命処置（心肺蘇生、AED を用いた除細動、気道異物除去）	24回 531人	21回 491人
救急法救急員養成講習	急病の手当、ケガの手当（止血法、包帯法、固定法）、搬送及び救護 <small>※救急法基礎講習修了者対象</small>	20回 462人	18回 450人
救急法短期講習	救急法基礎講習、救急員養成講習の内容から選択	115回 8,014人	116回 8,054人

## ②防災講習会の開催

炊き出し、避難所での疾病予防等、役立つ知識と技術を学ぶ講習を実施しました。



## (2) 水上安全法

水と親しみ、水の事故から人命を守るため、泳ぎの基本と自己保全、事故防止、溺れた人の救助、応急手当の方法などの知識と技術が習得できる講習を実施しました。

### ①水上安全法講習会実施状況

講習区分	講習科目	平成 30 年度 回数・受講者数	令和元年度 回数・受講者数
水上安全法救助員養成講習 I	水の事故防止、泳ぎの基本と自己保全、事故者の救助及び応急手当	2 回 22 人	1 回 10 人
水上安全法救助員養成講習 II	海、河川及び湖沼での事故防止、泳ぎの基本と自己保全、事故者の救助及び応急手当(台風のため、中止)	1 回 4 人	0 回 0 人
水上安全法短期講習	水上安全法救助員養成講習 I の内容 から選択、着衣泳	8 回 664 人	10 回 355 人



(プールでの救助)



(海での救助)

### (3) 健康生活支援講習

高齢者の介護の方法のほか、高齢期を迎える前からの健康管理への備え、地域での高齢者支援などの内容で各地域で講習会を実施しました。また、赤十字の活動を理解し、十分な知識と技術を持った指導力のある実働的な指導員の養成を図ること目的に、4名の指導員を養成しました。



(健康生活支援講習の様子)

#### ①健康生活支援講習会実施状況

講習区分	講習科目	平成30年度 回数・受講者数	令和元年度 回数・受講者数
健康生活支援講習	高齢期の健康と安全、地域に於ける高齢者支援、日常生活における介護について	4回	4回
短期 講習	災害時高齢者 支援講習	57回 1,986人	44回 1,989人
	健康生活支援 短期講習	15回 398人	29回 931人

### (4) 幼児安全法

子どもに起こりやすい事故防止と手当の方法、家庭内での看病の方法や災害時の乳幼児支援など地域や生活の中で役立つ知識・技術を習得できる講習を子育て支援センター、保育園、各地域で実施しました。



(幼児安全法講習会の様子)

#### ①幼児安全法講習会実施状況

講習区分	講習科目	平成30年度 回数・受講者数	令和元年度 回数・受講者数
幼児安全法支援員 養成講習	子どもに起こりやすい事故の予防と手当、子どもの病気と看病、子育てにおける社会資源の活用	5回 93人	4回 57人
短期講習	支援員養成講習から選択	91回 2,184人	89回 2,362人

## (5) 各種公的団体に対する協力

次の公的団体に救急法指導員を派遣し、各種団体主催の研修・講習や試験等に協力しました。

### ①「第1種酸素欠乏危険作業主任者技能講習」への協力

労働保健関係団体主催の「第1種酸素欠乏危険作業主任者技能講習」における救命講習（救急法基礎講習短期）に一般社団法人三重労働基準協会連合会長の承認を受けた救急法指導員を派遣しました。

### ②三重県警察職員対象の赤十字救急法講習会開催の協力

三重県警察職員の赤十字救急法指導員で行われる警察職員対象の救急員養成講習会への開催協力、各署からの短期講習等の依頼に救急法指導員を派遣しました。

### ③三重県自動車教習所指導員の養成

一般社団法人三重県指定自動車教習所協会からの依頼で、教習所で指導する指導員の養成を行いました。

## (6) 第3回赤十字救急法競技大会の開催

2月9日にセントヨゼフ女子学園高等学校・中学校（津市）で第3回赤十字救急法競技大会を開催しました。

この大会は参加者自身が日常生活における安全知識を高め、事故や災害時にお互いが助け合いながら活動するための知識と技術を向上させることを目的に開催しました。

当日は、12チーム57名の参加者により、一次救命処置競技（心肺蘇生・AED）、三角巾八つ折り・本結びリレー競技、三角巾応急手当競技の3種目で技術を競いました。

また、参加者の中にはチャレンジプログラムとして、小学生2チーム10人の参加もあり、真剣に競技に取り組み、大会を盛り上げました。



(一次救命処置競技)



(三角巾応急手当競技)

## 8. 青少年赤十字活動

青少年赤十字は、将来を担う青少年が赤十字を正しく理解し、積極的に赤十字運動に参加することを通じて、世界の平和と人類の福祉に貢献できるよう、「健康・安全」「奉仕」「国際理解・親善」3つの実践目標と「気づき、考え、実行する」という態度目標を定め、保育園・幼稚園、小・中・高等学校や特別支援学校において、学校教育の場で活動しています。

青少年赤十字活動の充実を図るため、加盟校・園の増強及び活動推進と県内の教員を対象に指導者養成研修や児童・生徒を対象にリーダーシップ・トレーニングセンター等を開催するとともに、青少年赤十字指導者と学生メンバーのリーダーの養成に努めました。



(中学校トレセン)



(高等学校トレセン)

### (1) 令和元年度加盟状況

(令和2年3月31日現在)

	幼稚園 保育園	小学校	中学校	義務教育学校	高等学校 特別支援学校	計
登録校・園数	69	229	86	1	10	395
メンバ数 (人)	3,954	49,607	22409	289	774	77,033
指導者数 (人)	366	2,479	1,587	12	47	4,491

## (2) 事業内容

### ①指導者の育成強化

#### ア 役員会・会議等

行 事 名	開催場所	実 施 日	参 加 者
指導者協議会役員会	三重県支部	令和元年 5 月 30 日	役員 14 人
		令和 2 年 2 月 18 日	役員 16 人
高等学校連絡協議会 顧問会議	三重県支部	令和元年 4 月 20 日	指導者 11 人
	三重県支部	令和元年 8 月 31 日	指導者 9 人
	三重県立木本高校	令和 2 年 2 月 15 日	指導者 12 人
第 3 ブロック指導者協議 会長・支部担当者会議	石川県支部	令和元年 6 月 14 日	指導者協議会長 1 人 支部職員 1 人
全国指導者協議会総会・ 研修会	日本赤十字社本社	令和元年 6 月 24 日 ～25 日	指導者協議会長 1 人

#### イ 研修会

行 事 名	開催場所	実 施 日	参 加 者
青少年赤十字リーダーシップ・トレー ニング・センター指導者養成講習会	国立オリンピック記念 青少年総合センター	令和元年 5 月 24 日 ～26 日	県内教員 1 人
青少年赤十字指導者養成研修会	三重県立鈴鹿青少年 センター	令和元年 5 月 28 日	県内教員 3 人
青少年赤十字指導者中央講習会	日本赤十字社本社	令和元年 11 月 23 日	県内教員 1 人
指導主事対象青少年赤十字研究会	日本赤十字社本社	令和 2 年 1 月 9 日	指導主事 2 人

## ②メンバーの増強と資質の向上

行 事 名	開催場所	実 施 日	参 加 者
高等学校連絡協議会	三重県支部	令和元年 4月 20 日	高校生 20 人
	三重県支部	令和元年 8月 31 日	" 17 人
	三重県立木本高等学校	令和 2 年 2 月 15 日	" 53 人
リーダーシップ・トレーニング ・センター(小学校)	三重県立鈴鹿青少年 センター	令和元年 7 月 31 日 ～8 月 2 日	小学生 27 人
			指導者 18 人
			計 45 人
リーダーシップ・トレーニング ・センター(中学校)	三重県立鈴鹿青少年 センター	令和元年 8 月 4 日 ～6 日	中学生 37 人
			指導者 28 人
			計 65 人
リーダーシップ・トレーニング ・センター(高等学校)	三重県立鈴鹿青少年 センター	令和元年 7 月 31 日 ～8 月 2 日	高校生 52 人
			指導者 15 人
			計 67 人
中学校連絡協議会	三重県総合博物館 MieMu	令和元年 10 月 26 日	中学生 20 人
			指導者 9 人
			計 29 人
青少年赤十字のつどい	三重県総合博物館 MieMu	令和元年 10 月 27 日	高校生 74 人
			指導者 17 人
			計 91 人
青少年赤十字スタディー・ センター	山中湖 東照館 山梨県南都留郡山中湖村	令和 2 年 3 月 22 日 ～3 月 26 日 (新型コロナウイルス 感染防止のため中止)	高校生メンバー 2 人が 参加予定であった。

## ③青少年赤十字『出前授業』の実施

青少年赤十字活動の推進と学校・園への赤十字思想の普及を目的に、加盟校・園を対象に出前授業を行いました。赤十字・青少年赤十字について学ぶ授業や、救急法・炊き出し、点字、防災教育プログラム『まもるいのち ひろめる ぼうさい』を活用した防災教育などがあります。

## ④国際交流会の開催

中学生と日本語学校で学ぶネパールの皆さんとの交流会を開催しました。三重県総合博物館 MieMu を会場とし支部創立 130 周年を記念として開催された「日本赤十字社展 一赤十字 人道の軌跡一」を見学するプログラムを取り入れ、参加者を 5 つのグループに分けて交流を行い、最後に全体で各グループが交流した内容を発表し合って交流を深めました。

## ⑤青少年赤十字のつどいの開催

青少年赤十字に加盟する県内の高校生が、青少年赤十字の活動を多くの皆さんに理解していただくために、三重県総合博物館 MieMu を会場として集まり、各高等学校の活動内容を発表するとともに、高校生メンバーの親睦も深めました。

## ⑥「子ども新聞プロジェクト」東海3県合同被災地派遣事業の実施

平成 30 年 9 月 6 日に最大震度 7 を記録した北海道胆振東部地震の被災地の現状を取材し、防災意識の高揚を図るために、津市立一身田小学校と津市立栗真小学校の 2 名の児童を子ども記者として北海道の厚真町・安平町・むかわ町の被災地へ派遣しました。

## ⑦支部創立 130 周年記念事業『絵画・書道コンクール』の開催

赤十字活動への理解と関心を高めるために、県内の児童生徒を対象に、赤十字に関わった絵画と書道の作品を募集しました。優秀作品は表彰を行い、三重県総合博物館 MieMu などを会場として作品展を開催しました。

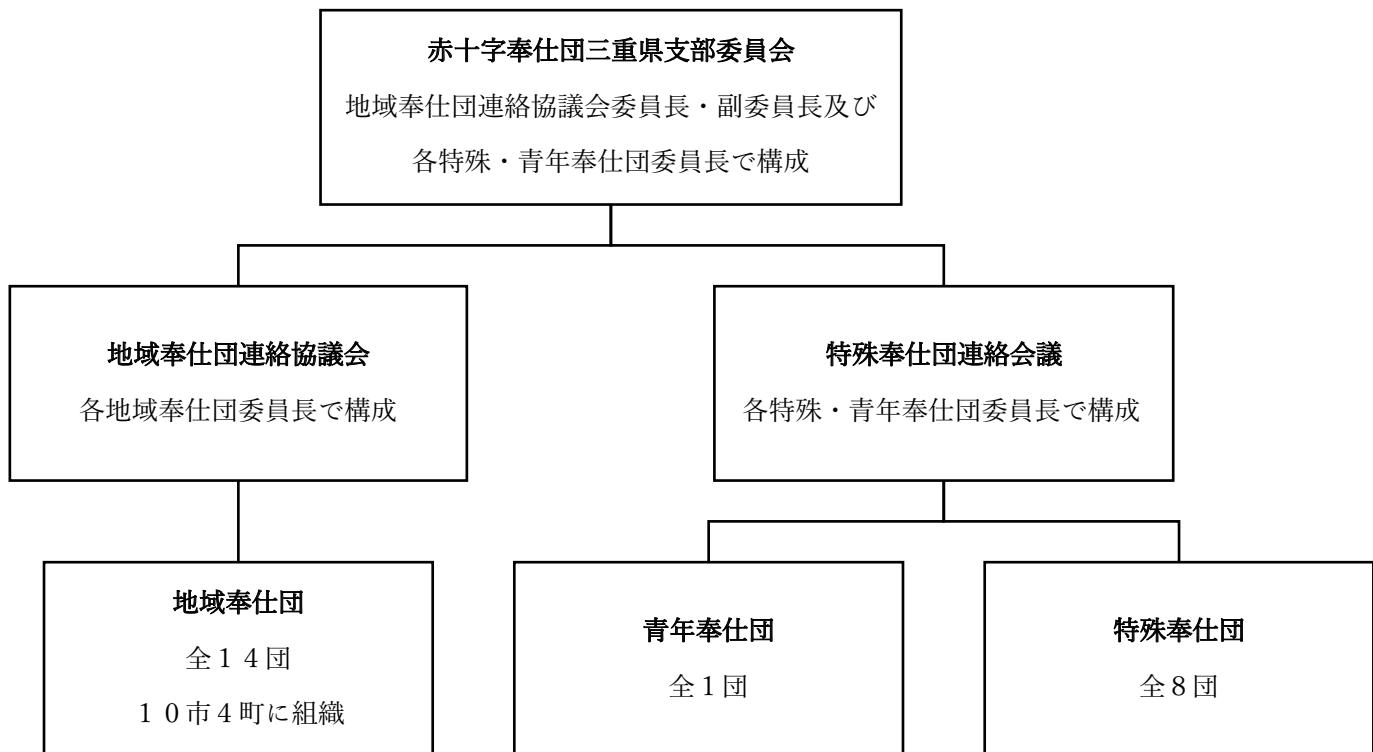
## ⑧一円玉募金・使用済み切手等の収集活動

内 容	協 力 校 (校)	金 額
青少年赤十字活動資金 (一円玉募金)	小 学 校 0 中 学 校 0 高 等 学 校 ・ 特別支援学校 3	37,840 円
使用済み切手・はがき	保 育 園 ・ 幼 稚 園 9 小 学 校 10 中 学 校 0 高 等 学 校 ・ 特別支援学校 5	—

## 9. 赤十字ボランティア活動

赤十字の基盤となる奉仕団は、市町など地域ごとに結成された「地域奉仕団」、救急法、水上安全法、無線、点訳、介護等の特殊技能を生かして社会に貢献する「特殊奉仕団」、さらに青年や学生等若い力を社会のために役立てようと結成された「青年奉仕団」が、赤十字の共通理念である人道に基づいて、それぞれの特性を生かした奉仕活動に取り組みました。

(1) 三重県支部奉仕団組織



(2) 日赤三重県支部奉仕団の組織状況（令和2年3月31日現在）

区分		団員数(人)		
		男	女	計
地域奉仕団	10市	127	1,651	1,778
	4町	5	1,718	1,723
	小計	132	3,369	3,501
青年奉仕団	三重青年赤十字奉仕団	4	20	24
	小計	4	20	24
特殊奉仕団  (専門技術をもった ボランティア)	日赤三重県支部点証奉仕団	23	153	176
	日赤三重無線奉仕団	47	5	52
	三重県赤十字安全奉仕団	42	68	110
	三重県赤十字たすけあい奉仕団	9	13	22
	三重県赤十字てのひら奉仕団	2	41	43
	伊勢赤十字病院奉仕団	0	132	132
	日赤三重県支部救護ボランティア	54	49	103
	青少年赤十字賛助奉仕団	18	7	25
	小計	195	468	663
合計		331	3,857	4,188

## (1) 会議・研修等の開催

三重県支部管内の各奉仕団の運営に対し、活動の情報交換や積極的な活動の推進に向けて連絡調整を図るための各種研修会や訓練等を実施しました。

### ①赤十字奉仕団三重県支部委員会

7月17日に県内に組織する各奉仕団組織の委員長で構成される委員長会議を開催し、令和元年度役員選出及び活動等について協議しました。

行 事 名	開 催 場 所	実 施 日
赤十字奉仕団支部委員会	三重県支部	令和元年7月17日
赤十字奉仕団中央委員会	日本赤十字社本社	令和元年5月30日～31日
第3ブロック奉仕団委員長会議	富山県	令和元年11月20日～21日

### ②地域奉仕団連絡協議会

7月11日に県内に組織する各地域奉仕団委員長で構成される連絡協議会を開催し、令和元年度役員選出及び活動等について協議しました。

行 事 名	開 催 場 所	実 施 日
地域奉仕団連絡協議会	三重県支部	令和元年7月11日
赤十字奉仕団幹部研修会※	津市	令和元年10月19日
赤十字地域奉仕団防災研修会	各地域	随時（2回）

※本研修会は、日本赤十字社三重県支部創立130周年記念事業への運営参加をもって、その実施に替えました。

## (2) 各奉仕団の活動

### ①地域奉仕団

三重県支部の地区・分区を中心に結成されており、それぞれの地域に即した活動を行いました。

#### 主な活動内容

- ・赤十字思想の普及及び会員増強
- ・老人介護施設訪問
- ・献血の推進
- ・災害義援金等の募集
- ・炊き出し訓練



(赤十字地域奉仕団防災研修会)

### ②三重青年赤十字奉仕団

社会人や学生等の若者によって組織されており、「青少年赤十字リーダーシッ

「プ・トレーニング・センター」へ参加する等、青少年赤十字事業の支援を行いました。12月14日に伊勢赤十字病院で開催されました「ゆずりは祭」にも青年赤十字奉仕団としてブースを設け活動しました。

また、三重県支部主催のイベント等にも積極的に参加しました。

### ③日赤三重県支部点訳奉仕団

視覚障がい者に活用いただく各種図書の点訳に取り組みました。6月16日には、亀山市関文化交流センターにおいて総会を実施しました。

- ア 元年度に点訳した図書・・・・・・・ 776 冊
- イ 累計点訳図書・・・・・・・・・・・ 48,239 冊
- ウ 点訳図書等寄贈数・・・・・・・・・・・ 2,168 冊



(子どもたちへの点訳指導)

### ④日赤三重無線奉仕団

アマチュア無線免許保持者で構成しており、各種訓練に参加するとともに、他県の無線奉仕団との交信を行い、災害時の情報収集活動に備えました。

また、団の組織強化と団員増強を図るために、イベントへも積極的に参加しました。

行 事 名	開催場所	実 施 日
総会	三重県支部	令和元年 5月 19 日
津市総合防災訓練	津市	令和元年 11月 10 日
通信訓練	津市 他	年 間
災害訓練・会議へ参加	津市、四日市市	年 間

### ⑤三重県赤十字安全奉仕団

赤十字救急法、水上安全法の指導員により構成されており、県民の健康と安全の為に県内各地で講習の普及に努めています。5月12日に総会を開催し、令和元年度事業について協議しました。また、2月9日に「赤十字救急法競技大会」をセントヨゼフ女子学園で実施しました。

## ⑥三重県赤十字たすけあい奉仕団

海外難民救援活動として、10月20日に水郷フェスタ2019、12月14日に伊勢赤十字病院まつりにてバザー等を開催し、救援金や赤十字活動資金への協力を行いました。



(伊勢赤十字病院まつりのバザー活動)

## ⑦三重県赤十字てのひら奉仕団

赤十字家庭看護法講習修了者により構成され、介護の知識を活かした支援活動を行っています。

桑名てのひら奉仕団、いなべてのひら奉仕団がそれぞれ、各地域の老人福祉施設の慰問、一人暮らしの老人の生活援助、また赤十字ニュースの発送作業などのボランティア活動を行いました。

また、伊勢てのひら奉仕団は伊勢赤十字病院において、患者さんの案内や、入院生活のお手伝いを行っていました。

## ⑧伊勢赤十字病院奉仕団

伊勢赤十字病院内において、衛生材料づくりや縫製作業等の活動を行いました。

## ⑨救護ボランティア

県内外の災害発生に備え訓練等に参加しました。

また、7月10日に役員会を開催し、災害発生時には迅速な救護体制が取れるよう体制の整備に努めました。

令和元年台風第19号災害に対しては、長野県長野市で災害ボランティアとして家屋の土砂撤去などに取り組みました。



(長野市での災害ボランティア活動)

## ⑩青少年赤十字賛助奉仕団

青少年赤十字指導者OBにより組織され、青少年赤十字への加盟促進や青少年赤十字活動の拡充、リーダーシップ・トレーニング・センターの運営などに協力しました。また、NHK海外たすけあいの寄付の受付をNHK津放送局窓口にて行いました。

### (3) 日本赤十字社三重県支部創立 130 周年記念事業にかかる各奉仕団の活動

#### ①創立 130 周年記念大会の運営

記念大会の運営スタッフとして、各特殊奉仕団が会場設営・撤去、記念大会の受付・案内、駐車場案内等を行いました。

#### ②日本赤十字社展の運営

賛助奉仕団を中心とした各奉仕団が、日本赤十字社展の運営スタッフとして来場者の受付や展示の説明を行いました。

#### ③日本赤十字社展関連イベントへの参加

点訳奉仕団・無線奉仕団・安全奉仕団・青年奉仕団が日本赤十字社展関連イベントに参加し、各団の活動を活かしたブースを運営しました。

#### ④「絵画・書道」コンクール審査

三重県青少年赤十字指導者協議会役員とともに賛助奉仕団が作品の審査を行い、受賞作品を決定しました。



(「絵画・書道」コンクール審査)

## 10. 赤十字会員の増強と活動資金の募集

「赤十字活動資金」は、赤十字が行う人道的な諸活動にご賛同いただき、年額 500 円を目安に拠出していただく資金です。

赤十字事業を推進するためには、組織の根幹である赤十字活動への支援者(会員)の増強と活動資金の安定確保を図っていくことが極めて重要です。

5月の「赤十字運動月間」を中心に地区・分区をはじめ多くの関係者の協力を得て赤十字活動資金の確保に努めました。

## (1) 活動資金の実績

(円)

内訳		令和元年度目標額	令和元年度実績額	前年度実績額	対前年度差額
地区分区募集活動資金		253,000,000	209,039,875	220,814,114	-11,774,239
内訳	個人 法人		205,721,933 3,317,942	207,029,489 13,784,625	-1,307,556 -10,466,683
支部募集活動資金		29,000,000	32,145,750	28,102,887	4,042,863
内訳	個人 法人		17,351,520 14,794,230	14,301,861 13,801,026	3,049,659 993,204
計		282,000,000	241,185,625	248,917,001	-7,731,376

## (2) 地区分別活動資金の実績

(円)

地区分区名	目標額	実績計	地区分区名	目標額	実績計
いなべ市	6,101,000	5,328,005	木曽岬町	829,000	939,000
桑名市	19,465,000	18,716,372	東員町	3,417,000	2,770,728
四日市市	44,630,000	38,273,000	菰野町	5,418,000	5,965,500
鈴鹿市	27,826,000	25,795,784	朝日町	1,459,000	1,194,300
亀山市	7,027,000	4,769,280	川越町	2,168,000	1,585,300
津市	39,462,000	30,480,743	多気町	1,886,000	1,960,117
松阪市	22,211,000	16,501,935	明和町	2,988,000	1,395,207
伊勢市	17,722,000	13,029,158	大台町	1,317,000	1,466,144
鳥羽市	2,616,000	1,767,100	玉城町	1,950,000	1,494,100
志摩市	6,911,000	4,866,574	大紀町	1,203,000	1,445,083
伊賀市	11,932,000	9,707,887	南伊勢町	1,785,000	1,588,003
名張市	11,184,000	7,284,005	紀北町	2,352,000	2,622,740
尾鷲市	2,691,000	2,279,733	度会町	1,001,000	984,723
熊野市	2,532,000	1,915,400	御浜町	1,277,000	1,472,864
			紀宝町	1,640,000	1,441,090
地区計	222,310,000	180,714,976	分区計	30,690,000	28,324,899
			合計	253,000,000	209,039,875

### (3) 会員情報管理システム

大切な会員情報について、個人情報保護の観点からも的確に管理が行われるよう、会員情報管理システムを導入しています。

### (4) 会員増強関係会議・研修会

地区・分区・保健福祉事務所の赤十字担当者を対象とした会議や研修会を開催しました。

行事名	開催場所	実施日	出席者
平成 31 年赤十字会員増強・活動資金募集運動打合せ会議 ・平成 31 年度会員増強、活動資金募集について ・平成 31 年度事業計画について	三重県支部	平成 31 年 4 月 10 日	地区・分区担当課長 及び事務局長 県保健福祉事務所担当者
平成 31 年度赤十字業務担当者新任研修会 ・赤十字の誕生と組織、活動について ・各種報告書の作成について ・赤十字会員増強運動について ・赤十字と災害救護について	三重県支部	平成 31 年 4 月 18 日	地区・分区担当者 県保健福祉事務所担当者
令和 2 年度赤十字会員増強運動対策会議 ・令和 2 年度会員増強運動について ・令和 2 年度事業計画について	三重県支部	令和 元年 12 月 18 日	地区・分区担当課長 及び事務局長

### (5) 有功会（会員数 126 人・社）

#### ① 役員会の開催

令和元年 7 月 18 日、日本赤十字社三重県支部において、役員会を開催しました。役員会では、平成 30 年度の事業報告・収支決算と令和元年度の事業計画・収支予算、役員改選について協議されました。

#### ② 総会の開催

令和元年 10 月 19 日三重県支部創立 130 周年記念式典の開催に先立って、三重県総合博物館 (MieMu) において総会を開催しました。

総会では、平成 30 年度の事業報告・収支決算と令和元年度の事業計画・収支予算、役員改選について審議・承認されました。

役員改選においては、平成 21 年から 10 年に渡って会長を務められた飯田俊司



(有功会総会)

氏（元株式会社百五銀行相談役）が会長を退任し顧間に就任され、新会長には伊藤歳恭氏（株式会社百五銀行頭取）が就任されました。

### ③有功会から絵本の寄贈

有功会から青少年赤十字加盟幼稚園・保育園(69園)に絵本（ぼくがあかちゃんだったとき）を寄贈しました。

### ④赤十字救急法競技大会への表彰記念品の寄贈

有功会から赤十字救急法競技大会での入賞者に表彰記念品（防災グッズ・赤十字トートバッグ）を寄贈しました。

## 11. 赤十字の普及と広報活動の推進

赤十字の理念や活動について、県民の理解を深め、会員の一層の強化を図るため、5月の赤十字運動月間をはじめ、年間を通じて、様々な広報活動に取り組みました。

- ①講習会等の赤十字活動を通じての広報
- ②市町のイベントへ赤十字ブースを出展し活動をPR
- ③中吊り広告の掲載
- ④三重テレビCM・FM三重ラジオスポットの放映
- ⑤駅、ショッピングセンター等でのポスター、チラシ、パンフレット、広報用ティッシュ等の配布
- ⑥赤十字NEWS（本社発行）の配布
- ⑦ホームページによる情報の発信
- ⑧機関誌「日赤みえ」の発行
- ⑨日本赤十字社公式マスコットキャラクター「ハートラちゃん」の活用



(中吊り広告の掲載)

## 12. 日本赤十字社三重県支部創立130周年記念事業

### （1）三重県支部創立130周年記念式典の開催

明治22年10月19日の創設から130周年を迎えた節目の年として、令和元年10月19日、赤十字ボランティアをはじめ、赤十字の活動に賛同してくださる支援者

及び地区分区などの関係者約340人の参加を得て、三重県総合文化センター多目的ホールにおいて、日本赤十字社三重県支部創立130周年記念大会を開催し、日本赤十字社の富田博樹副社長から、赤十字事業に多大な貢献をされた方々に有功章や感謝状の授与が行われました。

第二部では、津市出身でレスリング五輪三連覇の吉田沙保里さんをお迎えし、「何事も夢や目標を持って、チャレンジする大切さ」について講演されました。



(130周年記念大会)



(吉田沙保里さんによる記念講演)

## (2) 日本赤十字社展 一赤十字 人道の軌跡— の開催

日本赤十字社三重県支部創立130周年を記念して、これまでの赤十字活動の歩みを振り返るとともに、新たな時代への始動に向けて三重県総合博物館(MieMu)において「日本赤十字社展 一赤十字 人道の軌跡—」を開催しました。

日本赤十字社展では、赤十字の創設にかかわる歴史的な活動について、貴重な資料、写真、絵画など4つのテーマに沿って展示を行いました。

- ①開催期間 令和元年10月19日（土）～11月4日（月）
- ②会場 三重県総合博物館(MieMu) 2階交流展示室
- ③テーマ
  - ・赤十字の誕生
  - ・救護活動の歴史
  - ・血液事業のあゆみ
  - ・平成の災害と赤十字
- ④来場者数 1,975人



(日本赤十字社展)



(救護活動の歴史の展示)

### (3) 日本赤十字社展関連イベントの開催

日本赤十字社展の関連イベントとして「赤十字親子で学ぼう！」と題し、子どもたちや保護者の方にスタンプラリー形式で日本赤十字社を知っていたぐりイベントを実施しました。

- ①開催日 令和元年 10月 20日（日）、10月 22日（火）、11月 2日（土）、11月 3日（日）、11月 4日（月）
- ②会場 三重県総合博物館（MieMu）3階活動コーナー
- ③内容 キッズ献血セミナー、無線体験、とっさの手当の体験、点字体験、防災すごろく等
- ④参加者数 281人



（糸電話を使った無線体験）



（とっさの手当の体験）

### (4) 赤十字作品展「絵画・書道」コンクールの開催

赤十字の活動への関心をさらに高めることを目的に、小学校・中学校・高等学校の児童・生徒を対象として赤十字作品展「絵画・書道」コンクールを開催しました。

各地から個性豊かな作品が多数集まり、それらを青少年赤十字指導者協議会役員・賛助奉仕団員を中心とした審査員が審査し、受賞作品を決定しました。

また、受賞作品については、記念大会等による表彰や県内各地での展示を行いました。

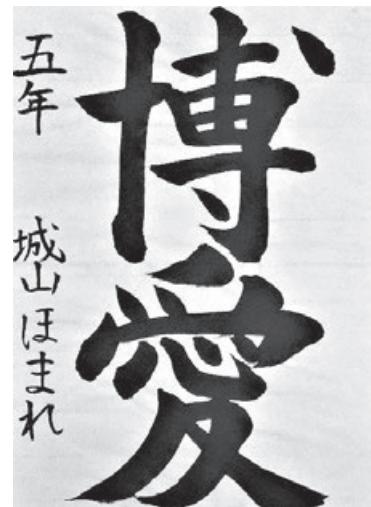
- ①対象 小学校、中学校、高等学校の児童・生徒
- ②応募締切 令和元年 9月 10日（火）
- ③応募結果
  - ・応募総数：1,630点（絵画 145点 書道 1,485点）
  - ・応募校数：86校
- ④表彰
  - ・三重県支部長賞（各1点）※
  - ・三重県青少年赤十字指導者協議会長賞（各1点）※
  - ・三重県青少年赤十字賛助奉仕団委員長賞（各1点）※
  - ・優秀賞（各27点）※記念大会にて表彰

- ⑤作品展示
- ・三重県総合博物館 MieMu（10月19日～11月4日）
  - ・伊勢赤十字病院（12月12日～1月9日）
  - ・三重県赤十字血液センター（1月15日～2月14日）

【三重県支部長賞】



津市立明小学校 3年  
林 大智



伊勢市立城田小学校 5年  
城山 ほまれ

【三重県青少年赤十字指導者協議会長賞】



三重県立木本高等学校 2年  
浦狩 朋乃香

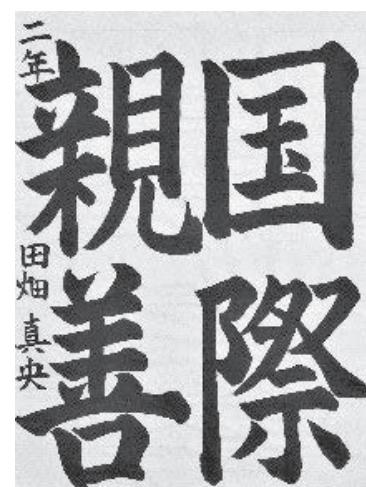


伊勢市立城田小学校 3年  
中村 康佑

【三重県青少年赤十字賛助奉仕団委員長賞】



津市立久居中学校 3年  
森崎 瑞偉



明和町立明和中学校 2年  
田畠 真央

## 1 3. 事業推進のための会議

### (1) 平成30年度業務・会計監査（令和元年5月31日）

三重県支部、伊勢赤十字病院及び血液センターの平成30年度業務・会計監査が、三重県支部において監査委員により実施されました。

- ①平成30年度実施事業について
- ②平成30年度一般会計歳入歳出決算について
- ③平成30年度医療施設特別会計歳入歳出決算について

### (2) 評議員会

各事業の計画、実施状況、予算・決算等について審議するため、評議員会を次とおり開催しました。

#### ①令和元年度第1回評議員会（令和元年6月7日）

三重県赤十字血液センターにおいて開催、次の議案を審議し承認されました。

- 議案第1号 平成30年度事業報告の承認について
- 議案第2号 平成30年度一般会計歳入歳出決算の承認について
- 議案第3号 平成30年度医療施設特別会計決算の承認について
- 議案第4号 日本赤十字社三重県支部役員の選出について

#### ②令和元年度第2回評議員会（令和元年1月30日）

日本赤十字社三重県支部において開催、次の議案を審議し承認されました。

- 議案第1号 令和2年度事業計画について
- 議案第2号 令和2年度一般会計歳入歳出予算について
- 議案第3号 令和2年度医療施設特別会計歳入歳出予算について
- 議案第4号 令和元年度一般会計歳入歳出補正予算について
- 議案第5号 令和元年度医療施設特別会計歳入歳出補正予算について

#### ③文書審議による開催状況

令和2年3月17日付、三支総第301号で文書審議により、次の議案が承認されました。

- 議案第1号 日本赤十字社三重県支部副支部長の選出について



(第2回評議員会)

### (3) 参与会・参与研修会

三重県内の自治会連合会長で構成する参与会、研修会では、各事業の計画及び予算等について意見を聴取づるために次のとおり研修会と参与会議を実施しました。

行事名	開催場所	実施日
参与研修会 ・「赤十字のあゆみ」説明 ・日本赤十字社展の視察	三重県支部 三重県総合博物館	令和元年 11月1日
参与会議 ・令和2年度事業計画と会員 増強・募集運動について	三重県支部	令和元年 12月3日

## 14. 令和元年度 決算状況

### 1. 令和元年度 一般会計歳入歳出決算（三重県支部）

#### 【歳入】

(円)

科 目	金 額	内 訳
社 資 収 入	241, 188, 625	一 般 社 資 223, 076, 453 法 人 社 資 18, 112, 172
委 託 金 等 収 入	1, 211, 629	災 害 補 償 収 入 1, 211, 629
補 助 金 及 び 交 付 金 収 入	12, 000, 540	本 社 交 付 金 収 入 12, 000, 540
繰 入 金 収 入	3, 696, 411	資 金 繰 入 金 収 入 3, 696, 411
資 産 収 入	145, 200	資 産 収 入 145, 200
雜 収 入	2, 746, 359	負 担 金 収 入 2, 052, 559 雜 収 入 693, 800
前 年 度 繰 越 金	27, 325, 817	前 年 度 繰 越 金 27, 325, 817
計	288, 314, 581	288, 314, 581

#### 【歳出】

(円)

科 目	金 額	内 訳
災 害 救 護 事 業 費	53, 565, 637	災 害 救 護 指 導 事 業 費 19, 517, 064 災 害 救 護 装 備 費 20, 348, 545 非常災害救援物資整備費 11, 718 救護看護師指導養成費 13, 688, 310
社 会 活 動 費	54, 186, 169	救 急 法 等 普 及 費 21, 554, 212 奉 仕 団 活 動 費 10, 579, 867 青 少 年 赤 十 字 活 動 費 11, 412, 399 社 会 福 祉 活 動 費 137, 800 医 療 事 業 費 3, 526, 183 血 液 事 業 費 6, 975, 708
国 際 活 動 費	1, 703, 524	国 際 救 援 活 動 費 1, 703, 524
指 定 事 業 地 方 振 興 費	3, 983, 000	指 定 事 業 地 方 振 興 費 3, 983, 000
地 区 分 区 交 付 金 支 出	37, 788, 756	地 区 分 区 交 付 金 支 出 37, 788, 756
社 業 振 興 費	29, 601, 447	社 業 振 興 費 15, 093, 883 広 報 活 動 費 14, 507, 564
基盤整備交付金・補助金支出	3, 361, 775	基盤整備交付金・補助金支出 3, 361, 775
積 立 金 支 出	5, 710, 020	資 金 積 立 金 支 出 5, 710, 020
総 務 管 理 費	28, 688, 362	評 議 員 会 等 諸 費 160, 125 總 務 管 理 費 27, 812, 032 監 查 費 716, 205
資 産 取 得 及 び 資 産 管 理 費	9, 299, 518	資 産 取 得 及 び 資 産 管 理 費 9, 299, 518
本 社 送 納 金 支 出	34, 536, 240	本 社 送 納 金 支 出 34, 536, 240
計	262, 424, 448	262, 424, 448

歳入歳出差引額 25, 890, 133 円 (翌年度～繰越)

2. 令和元年度 医療施設特別会計決算（伊勢赤十字病院）

(1) 収益的収入及び支出

収 入		(円)
病 院	収 入	決 算 額
医 業	収 益	23,097,224,535
医 業 外	収 益	521,504,245
医 療 社 会 事 業	収 益	1,583,069
付 帯 事 業	収 益	514,664,655
特 別 利 益		83,530
収 益 的 収 入 合 計		24,135,060,034

支 出		(円)
病 院	費 用	決 算 額
医 業	費 用	22,780,307,623
医 業 外	費 用	166,460,135
医 療 奉 仕	費 用	165,594,414
付 帯 事 業	費 用	566,447,511
特 別 損 失		4,256,224
法人税、住民税及び事業税負担額		13,271,912
収 益 的 支 出 合 計		23,696,337,819
収 入 支 出 差 引 額		438,722,215

(2) 資本的収入及び支出

収 入		(円)
病 院	収 入	決 算 額
固 定 負 債		3,668,000
資 産 売 却 収 入		0
そ の 他 資 本 収 入		1,331,688,424
資 本 的 収 入 合 計		1,335,356,424

支 出		(円)
病 院	費 用	決 算 額
固 定 資 産		125,540,924
借 入 金 等 償 戻		1,209,815,500
資 本 的 支 出 合 計		1,335,356,424
収 入 支 出 差 引 額		0

### 3. 令和元年度事業実施に対する監査委員監査報告書

#### 監査委員監査報告書

私たち監査委員は、日本赤十字社定款第62条第4項の規定に基づき、平成31年4月1日から令和2年3月31日までの令和元年度における三重県支部の業務の管理及び執行並びに会計を監査したので、その方法及び結果について次のとおり報告いたします。

##### 1 監査の方法及びその内容

各監査委員は、支部長等並びに当支部において事業を実施している支部事務局並びに伊勢赤十字病院、三重県赤十字血液センターの幹部職員等と意思疎通を図り、情報の収集及び監査の環境の整備に努めるとともに、次の方法で監査を実施いたしました。また、当該事業年度にかかる歳入歳出決算報告書について検討いたしました。

- ア 事業年度終了後に支部事務局及び各施設の担当職員から事業実施状況の報告を受け、必要に応じて説明を求めました。
- イ 日本赤十字社が会計の監査を委託している監査法人の当支部にかかる監査概要の内容を確認しました。

##### 2 監査の結果

- (1) 当支部は、支部事務局及び各施設が一体となって事業を実施し、会員、ボランティア、寄付者、利用者、患者、献血者その他一般市民の赤十字への期待に応えているものと認めます。
- (2) 歳入歳出決算報告書は、支部事務局及び各施設（歳入歳出決算報告書を作成しない三重県赤十字血液センターを除く。）の収支の状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認めます。

令和2年 7月 8日

日本赤十字社三重県支部

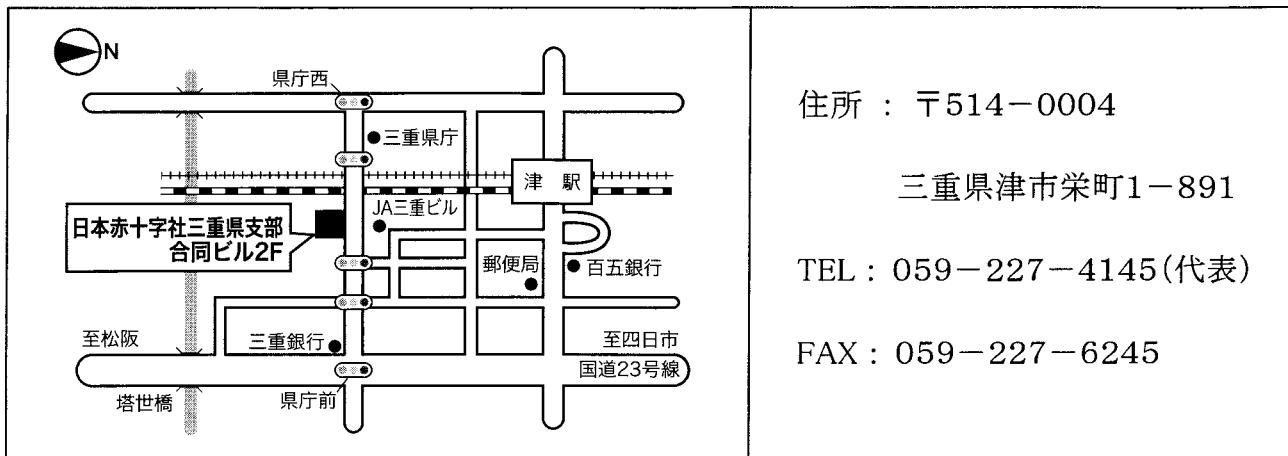
監査委員 東松公則子 

監査委員 加藤 隆 

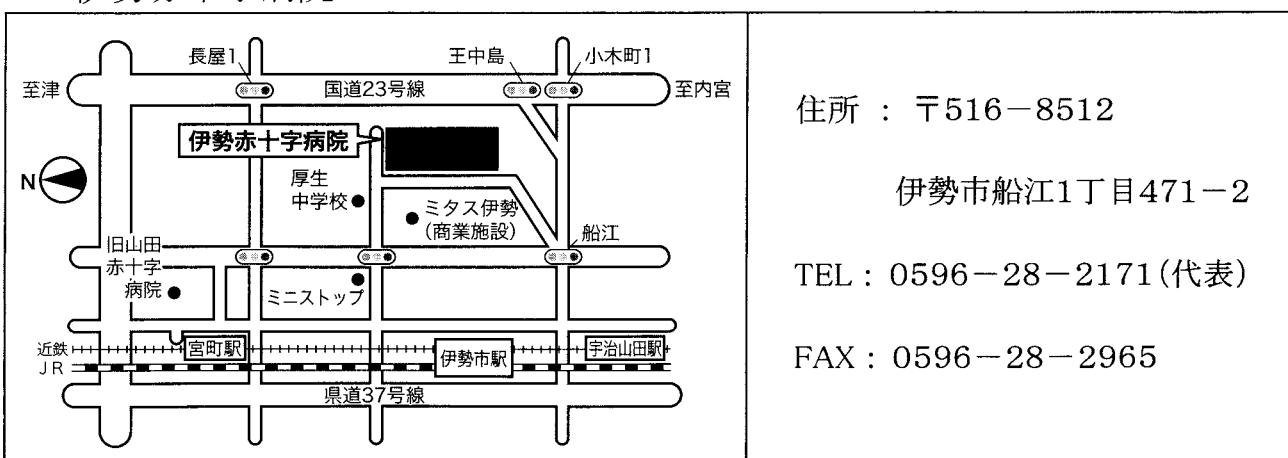
監査委員 酒谷宣章 

## 案 内 略 図

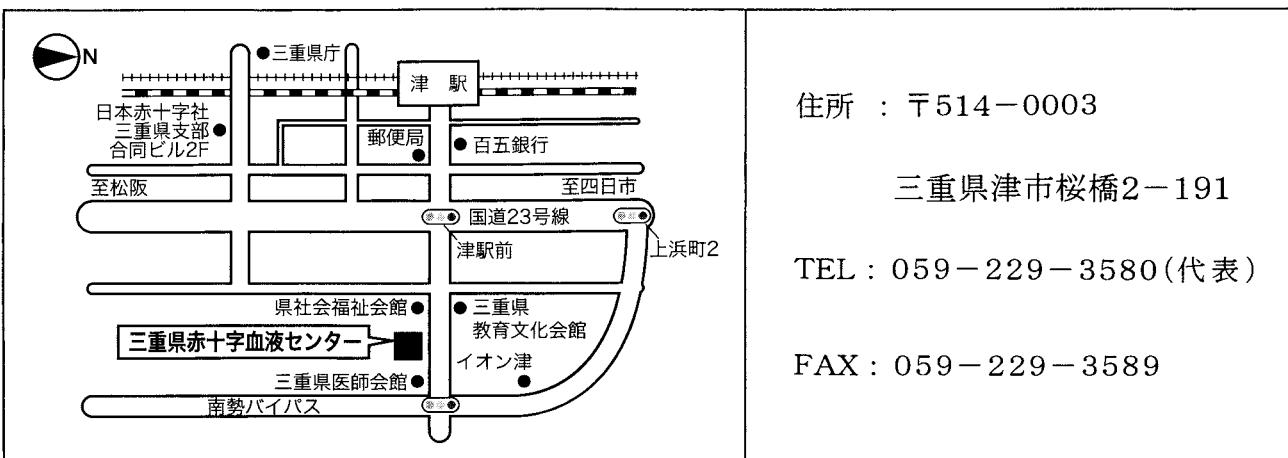
### 1. 三重県支部



### 2. 伊勢赤十字病院



### 3. 三重県赤十字血液センター



## 令和元年度事業報告書

発 行 令和2年8月1日  
発行元 日本赤十字社三重県支部

住 所 三重県津市栄町1-891  
T E L 059-227-4145(代表)

